

第22回復興支援活動  
(広島豪雨災害復旧活動)

「被災地という場をお借りして  
人としての生き方を学ぶ会」

活動報告



広島市安佐南区八木地区

2014.9.13-14

## 【第22回 広島豪雨災害復旧活動(復興支援活動)行程表】

9月12日(金)	20:30	JR尼崎駅 南側バスロータリー 受付			
	21:00	バス出発			
13日(土)	2:00	小谷SA(広島IC手前)到着→仮眠			
	6:00	コンビニで買出し			
	7:00	安佐南区ボランティアセンター到着・順番待ち			
	8:30	受付→現場へ移動			
	10:00	作業開始			
	15:00	作業終了			
	15:30	安佐南区ボランティアセンター横 公園に集合・バス出発			
	16:00	宿舎(魚光旅館)到着			
		※翌朝6時まで自由時間(夕食、朝食は各自で)			
14日(日)	6:00	宿舎出発			
	7:00	安佐南区ボランティアセンター到着・順番待ち			
	8:30	受付→現場へ移動			
	10:00	作業開始			
	15:00	作業終了			
	16:00	銭湯(スーパー銭湯ゆらくす)にて入浴			
	17:00	帰路へ向けて出発			
	22:00	JR尼崎駅 到着・解散			

参加者 43名 (男性36名・女性7名)

第二十二回復興支援活動 体験記

★大阪府 六十代 男性★

人はなぜ、ボランティア活動に参加するのだろうか。そして、自分はどのような理由で参加したのだろうか。

自然災害が起きる度にその被害に遭われた地域や人達のことをテレビや新聞で報道される。そして、悲惨な状況を映像や記事で知る。しかし、自分はこれまで、身内が被害に遭わない中で、被災された方には同情しながらも運命のようなものを感じ他人事のように受け止めていたように思う。募金はあるがボランティアとして現地の活動に参加することはなかった。十七年前の「阪神淡路大震災」という大災害においても自分は行動しなかった。仕事と自分の生活が優先されそれが当然としてそれ以上心動かすことがなかった。

しかし、教師という立場でありながら、「人助け」が頭だけの理解に終わっていることに後ろめたさを感じ始めていた。それが、三年半前の「東日本大震災」で初めて参加し、その惨状に驚くと共に無心に作業し全身汗だくになって確かな手助けになっていく自分の存在を実感したこと。またその時お互い初めて顔を合わせて一緒に活動するグループの中に温かい連帯感のようなものを感じた時、自分の中にも前向きな力を得た気がした。それは貴重な体験だった。

それから、もう一つの一面からもボランティア参加の意義を感じた。それは、報道される被災地の惨状の中で被災者の方々の取った行動や、ボランティアの方々の姿勢、言動(振る舞い)から「日本人」の良き特質をたくさん知ったこと。それに「誇り」を感じ嬉しかったこと。しかし、日本人の一人である自分が「誇り」を有難く思うだけではなく、それを受け継ぐ必要があると思った。困難な危機的な状況の中でこそ發揮される人間の特質。そのよき特質を民族として備えている日本人。

そんなことを実感したいと思いつつ、自分の日本人としての小さな使命感を示したかった。そして、それが今回、現地広島での活動のいろんな場面で、胸にこみ上げて来る感情として実感できた。たとえば、ボランティアセンターのスタッフの方々の我々の迎え方や送り方の姿勢に胸熱いものを感じた。また、作業を依頼された被災者の方の我々へのお礼の言葉以上の深々と頭を下げた姿に唇を噛みしめ涙が出た。それは、先の福知山での被災者から作業後に見送られる時の姿と共通していた。それは、ただただ「感謝」を全身で現している人間の純真な態度に胸打たれた。その姿を見るだけで、自分は十分有難かった。そのほか、銭湯で、また作業の移動中に市民の方から声をかけられた。

依頼された作業は、畑の上に堆積した土や水路に溜まった泥土の除去だった。まだ暑さの残る日中、かなりの重い作業(土を土嚢袋詰める)だったが、大勢の人海作業とリーダーの気遣いの指示の元、体には堪えるが心地よい疲れだった。土嚢袋の数は千袋を超えただろうか。そんな作業の後現場を跡にしたが、今回も災害に依る人命の犠牲や家屋等の損壊は筆舌難い不幸な出来事だが、現場に足を運ぶことで、そこで見聞し体験することを通して、日本人の多くの人達が人と人とのつながりや社会のあり方や自分の生き方を振り返り、日本人の良き特質を受け継ぐ機会となればと思った。作業に参加した人達のさわやかな表情で帰路につく姿を見ながら・・・。

最後に、今回も「日本を美しくする会」のご支援を頂き参加させて頂きました。有難うございました。また、大谷先生はじめスタッフの方、さらにお心遣いを頂いた宮崎先生、長谷川様、北口様有難うございました。もちろんご一緒させて頂いたみなさん大感謝です。

★和歌山県 四十代 女性★

広島での活動第一日目は、ある一軒のお宅での作業でした。山肌にとても近いそのお宅は山側が玄関になっていました。あの日の豪雨土砂崩れで、

一階部分の部屋の玄関側は押し寄せて来ただろうとおもわれる土砂や全壊した向かいの家の

「我歴」が突き刺さったままでした。その突き刺さり方はものすごく勢いがあつたことを物語っていました。暗闇の中でこの状況が押し寄せてきたかと思うと、心底恐怖を感じました。外から見る被災状況も目を覆いたくなりますが、家の中の被災状況も心が大変痛みます。一階部分のキッチン、ダイニング、寝室、玄関、お風呂場、洗面所、隙間、壁、家具、家電製品といったあらゆるところに土砂が入り込んでいました。ちよつとした隙間にもびっしりと土砂がこびりついています。電気は通っていませんが、水道は復旧していたので有難く水を使わせて頂きながらの作業となりました。リーダーの山崎先生の指示で「今日はこのお宅の奥様が気持ちが悪くても安らぐような作業をしましょう」と声をかけてくださりチーム十二名と、広島県の労働組合の女性の方々と作業をさせて頂きました。

私はリーダーから「ここは奥様がお仕事をされるところだから」とキッチン回りを主に掃除させて頂きました。窓やブラインドを掃除させて頂いているときにふと外をみると被災した住宅や道路が広がっていました。しかし、被災前はきっと普通の生活の営みがなされていて、この窓を朝あけて一日がスタートしていたのだろうなと思

ました。そしてシンク周りには何かのビンがありました。土砂を落とすと梅干しや果実酒のビンでした。とてもきれいな色の梅がつかっていたり、果実酒には二年と年数が貼られていました。お花も大好きだとお聞きしていましたがやはり、お花に関するものも数多くキッチン回りにもありました。きつとここの奥様は、お花を生けたり食事を楽しんでたり丁寧に日常を暮しておられたのだろうと想像しました。私たちの作業が終わるころ、東京から息子さんが帰省されました。このキッチンで作られた愛情のあるお料理を食べて育ったに違いありません。

短い時間で何が出来たのかは分かりませんが、このキッチンでまた、「家族に美味しいお料理を作ろう!」と少しでも思っただけなら・・・と思いを込めて、ただただ持っていた雑巾を何度も往復しつづけました。よくよく考えると、ボランティアでの作業は、何も特別なことではなく、日常生活の延長です。いつも雑さが表にでてしまっている私は、もつと日常生活を丁寧にしなればと改めて反省しました。

二日目の作業は、用水路に溜まった土砂を土嚢袋に詰める作業でした。休憩中にこの用水路の上に住まわれているご夫婦からお聞きしたのですがここは、夏は蛍が飛んだり魚が泳いだりしていたそうです。今は目の前にあるのは、茶色い水が

流れ土砂が積もっている用水路です。被災前のきれいな川を想像しました。すると自分の住んでいる近所の川が思い浮かびました。今、自分が住んでいる町の自然や風景も当たり前に思わず大切に慈しまないといけないと感じました。

一日目、二日目を通じて、被災後の場所へ行く私たちボランティアにとって大切なことは何かを考えました。それは一つには「被災前の生活を想像することです。被災者が望む作業とは何かを考えた時、自分の勝手な判断だけではなく、その場をしっかりと観察し、人々の以前の生活の営みを想像することで、被災者の望みにより一層近づいた作業になるのではということ。一日目、水野先生が外で、花瓶やCDを丁寧に洗われていました。リーダーはすかさず、この家ではこれらは大切なものと判断されていました。そのような感性やアンテナを磨くことの大切さを今回一番学ばせて頂きました。ありがとうございます。その他にも一緒に働かせていただいたメンバーの感性は素晴らしかったです。いつも自分より他人のことを優先される方、思いを行動に即うつす方、誰とでも気軽に話せて空気を明るくされる方、言葉は少なくとも行動で思いを伝える方、ものごとからえ方が繊細で素晴らしい方、現場を見て瞬時に的確な指示を出せる方、工夫しながら作業を進められる方、皆の荷物を長い距離運んでくださ

た方、現地のボランティアの方々、私たちの活動を陰で支えて下さっていた多くの方々、・・・等々本場に皆我が師です。大谷先生にはいつも、このような機会を与えてくださり感謝の思いでいっぱいです。明日からの仕事にも生かして頑張ります。三日間ありがとうございました。

★★★大阪府 三十代 男性★★★

【人が喜ぶ生き方を選びたいと思いながら参加させていただきました。】

◆現地の方の要望を優先する。

今まで「人のために」と思いながら作業させていたでいていづもりでも、いつの間にか自分の思いを優先させてしまいました。今回も、そういう気持ちは何度も湧き出してきましたが、被災された方から気づかせていただきました。

一日目の作業で、ある個人宅の作業をさせていただきました。リーダーをさせてもらう中、現地の方とともに打ち合わせに行かせていただきました。「うちをしてもいいんですか？」と、下向きかげんのお母さんと最初話をさせて頂き「お母さんが少しでも今日生きる活力をつけてもらえる作業をさせていたどうか」と心に決め、チームのみなさんに話をして作業に入りました。作業内容は泥だし後のフローリングや部屋・家

具を水で洗い流し、解体までに少しでもキレイにすることでした。ホースで水をかけ、デッキブラシで家の中を掃除する・・・いいことをしているようです。我が家でそんなことをしたらどうなんだ？ でも、掃除をしなければキレイにできない：どうすれば？と、考えさせられました。どの基準でどのようにすればいいのかの判断は、「家主のお父さん、お母さんが喜ばれることをしよう」と、ただそれだけでした。

そして、私たちのチームでさせていただけるとは「丁寧にふきあげをさせていたどうか、トイレ掃除のふきあげをならって！」ということでした。そうすると、ふきあげをしてくださるチームのみなさんがおられるので、水の使い方が変わりました。掃除のやり方がかわってきました。

置かれていた、お花の鉢をメンバーに洗って頂きました。お母さんが大切にしていたこと、お花が好きだったことを、そのメンバーがお母さんと話をする中で教えてくださいました。また、CDはお父さんが大切にされていたということも、後で聴くことができました。土砂にまみれ、瓦礫扱いをしていますが、「我歴」を大切にすること、大切さを改めて学ばせていただきました。

リーダーとしての役割を考えさせてもらえた一日でした。一日の中で感じさせてくださいたいことは、自分の思いをメンバーに伝え自身で前に立

って動くことです。それと、同じようにメンバーの思いや人柄を知り、その人にあつた場でその人の思いを発揮してもらるように声かけをさせてもらうことでした。リーダーとして、先頭に立つだけでなくスペースをあけてメンバーの方が自主性をもって取り組んでいけるような環境をつくることでした。

今回の活動では、メンバーの方がみなさんリーダーをしてくださったこと、私の想いを優先させてくださったからこそまとまることができました。リーダーはみなさんがあってこそだと感謝の想いでいっぱいです。ありがとうございます。

最後になりましたが、送り迎えにパンの差し入れをしてくださった宮崎先生。夜にもかかわらず、見送りに手作りおにぎりにつけもの、トマトの差し入れを仕事のあいまにしてくださいました長谷川さん、北口さん、長谷川さんの会社の社員のみなさま。バスの運転手さん。石巻の門脇小学校元校長の鈴木洋子先生。広島の宿舎の方、現地のボランティアの方、通りすがりのおばさま。日本を美しくする会の諸先輩方。みなさまの、ご支援があつてこそ活動させてもらえました。そのことに感謝致します☆☆ありがとうございます。

★★大阪府 四〇代 男性★★

このたび「日本を美しくする会」のご厚意により、八・二〇広島土砂災害の復興支援に参加させていただくことができましたことを、心より御礼申し上げます。

活動内容自体の説明は、冒頭にございます報告書に譲らせていただき、ここでは私個人の事前勝手な思いを述べさせていただきたく存じます。

今回で「日本を美しくする会」の復興支援活動は二十二回目を迎えます。何度も活動に帯同させていただくなかで感じますのは、学びの素はすべて実践の場に落ちているということです。志の高い方がさまざまな現場で取る動作や立ち振る舞い、指示の仕方やアイデアなど―それらが残像として、音として脳裏に焼きつくのです。

広島行きの一週間ほど前、石巻市のある方から電話が掛かってきました。

「広島の人たち、これからきつとゴミの処理とか大変でしょうから、よかつたら現地で手渡してきてくれませんか」

お手持ちのゴミ袋は石巻市指定のもの。けれども、その方は東日本大震災のために石巻市外にお住まいなることが決まり、そのゴミ袋は使えなくなつたのです。

―津波さえなければ。  
きつと何百回、何千回もそのような思いにとら

われたに違いありません。そしてその思いに後ろ髪を引かれるたびに、進むはずの道を進めなくなり、立ち止まり、孤独感にも苛まれる中で必死に払拭して来られたものと拝察いたします。悲喜こもごもの想い出の詰まったゴミ袋。私の自宅に送られてきたのは、その三日後でした。

ゴミ袋も何十枚ともなると、それなりの重さがあります。重量感たつぷりのその荷物を開封いたしました。すると、数枚ずつ小分けにしたゴミ袋の一つひとつに手紙が書かれているではありませんか。

あせらず 無理せず  
今日一日のことだけ  
考えて下さい

出口に向つて  
まちがいなく  
進んでいるのですから

進みたくても進めない。  
経験者だけが分かる気持ちなのだと思えます。思わず目頭が熱くなつてしまいました。

これが「思いを寄せる」ということなのだ、と改めて学ばせていただきました。  
ゴミ袋は安佐南区のボランティアセンターのス

タツフの方に手渡してまいりました。その際に、このゴミ袋をめぐる事情をすべてお話しいたしました。スタツフの方が領きながら、真摯な目をして受け取って下さいました。



この仲間たちが見せて下さる数々の「模範演技」に、老若は関係ありません。とくに今回は、若手の方々が私たち全体を束ねるリーダーとして大活躍して下さいました。山崎先生はお家の泥出しやお掃除に際して、これまでの支援活動で学んできた「ていねいさ」をメンバーに周知徹底なされたと聞きました。松浦先生は優しいお心で、



疲れている方はおられないかと常に気遣い、休憩の時間管理をしっかりとなさって下さいました。小峠先生は体力を活かし、最も困難な場所に率先して立ち入って活動なされていました。最若手の織地君はがむしやらに、ムードメーカーとなりながら、また後輩たちをしっかりと仕切ってくれていました。頼もしい背中たちに、心の中で思わず手を合わせました。

また、壮年の先輩方のご活躍にも脱帽です。

黙々と土のう袋に土砂を詰める田仲先生、辻田様。若手顔負けのシヨベルさばきでした。大したこと何も出来ずにいる自分が恥ずかしくなりました。学ばせていただき、本当に有難うございます。

これだけのことを学ばせていただきながら、「日本を美しくする会」からサポートを受け、現地でもボランティアセンター付のスタッフの方々から手厚いお膳立てをしていただき、その他にも実に多くの方々からご支援賜り、まったく天秤が釣り合いません。ただただ感謝する他ありません。本当に有難うございます。

また、家を何日も空けて出ることには理解をし、家事をすべて引き受けてくれている妻にも、いつもにもまして感謝しなければなりません。

志高い方々の実践。そこからの学び。

必ずやこの学びを日々の生活に活かし、人として一歩でも前に進むことができますように。広島

が少しでも復旧し、進めないでいる被災者の方々の心の傷が少しでも癒えて、前に進むことができますように。もちろん、福知山や丹波、豊岡、十津川、伊豆大島、そして岩手、宮城、福島も…日本全体で心を寄せて、手を取り合って、そしてみんなの前に進める日がいつか来ますように。ご縁をいただきましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

★愛知県 四十代 男性★

今回の広島豪雨災害復旧活動は、現地の方々のお役に立ちたいということだけでなく、私自身が職場で思うような結果が出ていないこともあり、何かをしなければという思いもあって参加させていただくことになりました。バスで一緒にさせていただく方は、学生から年上の方までおられますが、皆、志が高く、一緒にさせていただくだけで本当に勉強になります。自分はまだまだだと、いつも思います。

ボランティアセンターで順番待ちをしているときに、横に並んだ現地の方とお話をさせていただきました。因島で造船の仕事をされているMさんは、床下の泥を掻き出すのに便利だと、左官さんが使う練り鍬を持っていました。その日の作業が終わって戻る時、偶然Mさんにお会いしました

が、練り鍬を使うことのない作業だったらしく残念がっていました。「次はボランティアセンターを通さず、一人で困っている家を回る。泥のある限り俺は来る。広島の間が何とかせにやいかんけん」と言われていました。

普通の会社員だと言われていた会社役員風のKさんは、阪神大震災の時、大学時代に神戸に下宿していた縁で、広島から一週間程神戸に出向き、友人宅に泊まってボランティアに行った話をしてくださいました。昭和三十年代や四十年代の広島の話のことも話してくださいました。Kさんは「力仕事の得意な人と、そうでない人が皆同じ仕事をしている。それはよい面もあるが、適材適所に割り当てることも必要ではないか」と言われていました。その日の作業は用水路の泥出しでしたが、Kさんも近くで作業されていました。土嚢を運ぶトラックが来たとき、用水路の中にいた私はすぐに上に上がれませんでした。Kさんは用水路から上がり、真つ先にトラックの荷台に飛び乗り、土嚢を受け取っていました。

二日間の作業が終わわり、公園で服を着替えているとき、一人のお婆さんが近寄ってきました。県外から来たと伝えると「ニュースを見て何かしたいと思っても、私では足手まといで何もできません。私たち広島の間がやらなくてはいけないのに、ごめんなさい。」と言われました。「今日、

私は、お友達とこの公園でお話をするために来ました。みなさんが、頑張られているのにほんとうに申し訳ありません。」と言われ、公園の奥の方へ歩いて行かれました。しばらくしたあと、お婆さんが戻ってきて、「お友達と食べようと思って持ってきたお菓子です。こんな物しかなくて、皆さんの人数分ないかもしれませんが、どうぞ」と言っただけで入れました。大谷先生がよく言われる、ボランティアに行く人が偉い訳ではないということがこのお婆さんに出会ってよくわかりました。もつと話をすれば、原爆の時の話なども聞くこともできたかなと、後で思いました。このお婆さんが、いつまでも元気でお友達と公園でお菓子を食べながらおしゃべりできるといういなと思いました。

深夜二時に自宅に戻ると、嫁さんが起きてきてくれました。広島に行っている間に、私の母が体調を崩し病院へ行ったが自力で戻れないくらいひどくなって迎えにいかれたとのこと。（今は快方に向かっています）私が広島で心配しないように黙っていてくれたとのこと、私は周りに配慮してもらって広島へ行かせていただいたのだと改めて思いました。ボランティアの人たちの中にいると、本当に日本人ってすごいなと思います。いい人の中にいて、自分も一緒に作業をさせていただくことは、疲労感も心地よく、自分も少しだ

けいい人になったような気持ちになります。今もたくさん泥のある被災地の方々に対しては、ほんの微々たることしかできませんでしたが、私にとっては、自分を振り返ることのできた、大きな三日間でした。今回の活動を企画していただいた大谷先生、神姫バスの運転手さん、ご一緒させていただいた皆さん、日本を美しくする会の皆様には本当に感謝いたします。ありがとうございます。行かせていただいた者の責任として、この経験を生かして、さらに自分を磨いて、周りの人たちに接していかなくてはならないと強く思いました。

★★大阪府 四十代 男性★★

この度も、日本を美しくする会の皆様のご支援により、第二十二回復興支援活動・広島豪雨災害復旧活動に参加させていただきました。大変ありがとうございました。そして、いつもながら取りまとめ、連絡調整をさせていただきました大谷先生、大変ありがとうございます。また、神姫バスを運転していただき大変ありがとうございました。重ねてお見送り、差し入れをいただきました、長谷川さんはじめ、宮崎先生ありがとうございます。感謝の念でいっぱいです。

【「ボランティア体験ツアー」のような感覚でし

た】  
すべてにおいて、「していただいた、整えていただいた」そのレールの上で、「活動をさせていただいた」という感覚の三日間を過ごさせていただきました。

特に今回は、私たちを受け入れてくださる、現地のボランティアセンターで活動される、「受け入れる側」のボランティアの方々の素晴らしいを強く感じました。

「おはようございます」「ありがとうございます」「お疲れ様です」「行ってらっしゃい、お願いします」「お疲れ様でした。ありがとうございます」「大きな声と笑顔で受け入れていただき、お見送りいただき、そして、お迎えいただき。マスク、手袋、飲み物、アメ、必要な用具類、長靴洗浄、手洗い、うがい、冷たいおしぼり、クッキーに果てはカキ氷まで、本当に「至れり尽くせり」の中で活動をさせていただきました。ボランティアセンターやサテライトで活動される現地のボランティアの方々に感動いたしました。ほんとうに、何もかもを整えていただいた上で身一つでさせていただいた、したがって、「ボランティア体験ツアー」に参加させていただいたという感覚が残りました。ありがとうございました。

【現地において】  
活動においては、やはり被災された家屋などを



見るにつけ、その悲惨さを感じました。もし自分がその立場ならば・・・考えただけでもつらいと感じました。家屋などの傷以上に心の傷、ダメージのほうが大きいだろうと感じました。

あたりまえに過ごしている毎日やあたりまえの日常が、実は当たり前ではない。石巻でも感じているはずなのに、いつの間にか自分の中で薄れてしまっています。＼毎日を丁寧に生きる＼はずなのに忘れてしまう。至らない自分に出会いました。

作業は粘土質の山土、石だらけの山土はスコップも入らず、とても手間がかかりました。今回させていただいた作業は畑に入り込んだ山土の除去、二日目には用水路の土砂除去をさせていただきました。いずれも若いリーダーを中心に試行錯誤をしながら、作業を進め、一日目も以前の畑に近いくところまで除去することができたかと感じました。二日目は用水路をボランティアに来られている方々のかかりの人数で作業しました。まだまだではあるにせよ、かなりの量の土砂が土嚢に詰められたかと思えます。いずれの日ももう少し、と感じたり、きりがいなあと感じたりしましたが、多くの人たちの手作業により、少しずつ確かに土砂は土嚢につめられ減っていきます。人の力はすごいなあと感じました。また、あらためて、機械、ユンボの力は絶大だとも感じました。そし

ていつもながら、大産大野球部のみなさんの体力、パワーには圧倒されました。今回も素晴らしいかったです。

私が本当に感じたことは、作業もそうですが、依頼主の側に立ったときに、例えば、山土の入った畑などは、＼これを自分ひとりで、自分が何とかしなければならぬのか＼と感じたときに、自分であれば＼心が折れる＼ような感覚ではないのかと感じました。そんな意味では、ボランティア活動は細く長く続けることがより大切かと感じました。ボランティア活動は幅広いものであり、一回でできる作業自体は微々たる物かもしれませんが、何より、その場に赴き、土砂をのけるだけではなく、石巻でもそうですが、現地の方々と交流することや水野先生がされたお花やCDをきれいにすることなど、実はもつと細かな一人では気の遠くなるような作業を一緒にすること、いわゆる心を寄せることなどが大切なボランティア活動であると、今回さらに感じ、学びました。

#### 【最後に】

私は、二週間前の活動にも参加させていただきました。また、石巻へも何度となく参加させていただきました。南相馬にも行かせていただきました。いつも感じますが、参加させていただき、みなさんと時間と価値観を共有することができましたことが、何より素晴らしい、＼ありがたいな

あ＼と感じています。

今回は広島で泊めていただき、広島焼きを食べたり、話をしたりする時間も多く、尼崎でのお見送り、お迎えをいただき、現地ボランティアセンターでもボランティアの方々を受け入れ、お見送りをいただき、お風呂も気持ちよく、バスも快適に過ごさせていただきました。本当に至れり尽くせりの「ボランティア体験ツアー」に参加させていただいたようでした。

今回も多くのことが自分の財産になっています。ボランティアを受け入れるボランティアなどボランティア活動は本当に幅広いものがあると特に学びました。どんなことであっても、心を寄せることこそがボランティア活動なんだと強く感じました。いつも本当にありがとうございます。あたりまえの毎日は、特別な毎日であり、心を寄せて日々感謝の気持で生活したいと思えます。ありがとうございました。

★★兵庫県 三十代 男性★★

何度か災害ボランティア活動には参加していますが、今回の広島における活動で強く意識した事がありました。それは、自分がボランティア活動をしながら目にはしているのは、被災された場所の切り取られた時間でしかないということです。

被災当初から、復興が終わるところまでの長い時間に対しての、ごく限られた僅かな時間しか知り得ていないということを感じました。だからこそ、被災地を離れ、自分の生活圏に戻った日常生活において、被災地に対する思いを途切れさせずに持ち続けることが、その場所に足を運んだ者にとつて大切なことだと感じました。だからこそはじめにお伝えします。未だ多くの不安の中にいる被災された方々へ。僅かな力添えしか叶いませんでしたが、一刻も早い復旧復興を心から願っております。

今回の広島行き日程は、当初復興地に学ぶ会として予定されていたものが変更になったという経緯がありました。東北にせよ、広島にせよ、ネックとなるのは現地に行く手段です。それを、日本を美しくする会の方々に援助していただき、大谷先生をはじめとする先生方に段取りを組んでいただいて、現地で活動をさせていただけた事に、心より感謝しております。

今回の活動では、光の部分と影の部分を見たように思います。影の部分としては、冒頭に述べたように、簡単には進まない復旧状況であるという現実と、その現実に直面されている方々の簡単には晴れない心情を感じました。ただ単に相手のためを思って良い事をして、それを相手が好意的に受け止めて、笑顔が生まれるといった単純な状況

ではありませんでした。被害を受けていない見ず知らずの人間から、生活の場に立ち入れられ、支援を受ける側の方々の心情は、複雑なものがあるだということ、被災された方々の表情から感じました。

一方で、ボランティアセンターの姿には、眩しいほどの光を感じました。まずは、受付時間の一時半以上前から並んでいるボランティアの方々の存在です。本当に多くのボランティアの方々が広島に集結されていきました。また、その多くのボランティアを迎えるボランティアの存在が、今回光を感じた理由です。訪れた私達を、たくさんの心のこもった挨拶で迎えてくださいました。ボランティアセンターには、長靴、手袋、マスク、飲み物など、活動に必要なありとあらゆるものが揃っていました。膨大な人数のボランティアを、スムーズに活動させるためのシステムが確立されていました。ボランティアセンターの後方支援という関わり方を選んだ方達が、思いの限り、工夫の限りを尽くされた姿であると感じました。活動終了後にも、たくさんのお礼の言葉と共に迎えてくださり、長靴を洗い、消毒してくださり、手を洗わせていただき、うがい消毒をさせていただき、飲み物やおしぼり、かき氷まで提供していただきました。各個人が、自分に来ることをと意思を持って動いていることの結実で

あるように感じました。実際、活動の負担は非常に軽減されました。それどころか、身体の疲れも吹き飛ばような心づくしを受けました。

感謝の言葉をいただいたのは、ボランティアセンターで迎えてくださった後方支援の方々だけではありません。広島街で出会った方から、温かい感謝の言葉をいただきました。感謝されるために行ったわけではないので、戸惑った部分もありました。それでも、心は正直に、その温かさに触れて、感動に打ち震えました。

先に述べた影の部分があります。ですから、光の部分を取り上げて美談にすることなど、できるはずもありません。それでも、光から感じ取った温もりは忘れずになりたいと思います。日常生活においても、同様の温かさを持つて、人と関わりたいと思いました。そうして被災地で感じたことを日常生活においても忘れずにいることで、被災地に思いを寄せ続けたいと思います。そして、自分に力添えができる状況があれば、必ず再び自分に来ることをしたいと思います。

最後に、共に活動をさせていただいた皆様への感謝を述べさせていただきたいと思えます。一人ひとり内容は違えど、多くのことを共に感じることでできた皆様の存在は、自分の感受性を刺激してくださりました。皆様のおかげで、より多くのことを感じることでできたように思います。皆様

が、日常生活に戻られ、それぞれの場所で、また思いを持って生活をされていることが目に浮かびます。その事は、とても心強く感じられます。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。ありがとうございました。

★★奈良県 二十代 男性★★

広島の災害があつてから、足を現地に運びたい、自分の目で今の現状を確かめたいという想いがありました。東北行きから広島行きに変わり、また違ったスイッチが入った気がします。大谷先生から頂いた一週間前の活動報告のメールに、全てがつまっていたように思います。

今回その想いが私の中で、私だけが現地に行き体感するのではなく、身近な人にも共に感じてほしいと強く思いました。そこで今回いっしょに参加してくれる仲間がいました。声をかけると、「行かせてください」と返事でした。とてもうれしかったです。ひとつ架け橋になれたのかなという感情と、なにか感じてくれたなあという感情と。そしていっしょに過ごせることが何より幸せでした。仲間がいる幸せ、声をかけると行かせてほしいと行ってくれる人がいる幸せ。自分は素晴らしい仲間恵まれています。

活動では、グループのリーダーをさせて頂きま

した。緊張と不安もありましたが、仲間のみなさんがとても心強く支えて頂き、良い意味で良い緊張感の中で活動することができました。素晴らしい仲間の中でリーダーをさせていただき、大きな経験にもなりました。一声かけると「ハイ！」と返事を返して下さったり、近くで寄り添い相談に乗って下さったりと、やはり皆様の心遣いにもいつも学ばせて頂いています。活動場所では、依頼者の方から、その場の状況、今の現状、その大変さ、過酷さ、たくさんものを肌で感じました。毎日毎日復興作業されていて、疲労困憊の様子が体からにじみ出ていたように感じます。何度も何度も深々とお辞儀されました。その姿は忘れません。また私たちのことも何度も気遣って声をかけて頂きました。最後にも「ありがとうございます」とお辞儀され、おっしゃいましたが、そのとき何も声をかけることができませんでした。まだ今の自分には「ありがとうございます」と返すしかできませんでした。

ボランティアセンターの充実している様子にも驚きました。「おはようございます」「ありがとうございます」「飲み物はありますか」「幾度となく声をかけてくださるボランティアの方々がいまいました。ボランティアという形で活動する私たちを支えてくださるボランティアの方々がいる。受付から誘導、準備から片付けまで、私たちはし

て頂いた中で、ほんの少しの一部をさせて頂いてく。【自分がしていることより、してもらっていることの方が多い】大きな気づきです。私たちが活動するにあたり、どれだけたくさんの方が活動するための準備をして下さっているのか。また活動した後に、どれだけたくさんの方が片付けにかかわって下さっているのか。私たちは良いところをさせて頂き、良い想いをさせて頂き、本当にしんどい部分は何もしていません。そこにしっかりと心を寄せないといけません。改めて感じたことです。活動後、ボランティアセンターで迎えて下さったボランティアの方々からの「ありがとうございます」の言葉のシャワーも浴びました。言葉のもつパワーもすごいものです。

迎えてくださるボランティアの方々温かさ、現地の被災者の方々の温かさ。素晴らしい温かさの中の活動でした。言葉の全てが温かさで包まれていて、また来させてほしいと心から思える環境をつくられていること。これは日々の自分の生活でも同じで、またしたいとか、また来たいとか、活動しやすいムードをつくることをより心がけていきたいと思いました。ありがとうございます。

★★大阪府 三十代 男性★★

今回参加させて頂いた広島復旧活動に中で一番感じたことは、「感謝」の大切さ、そして、その感謝の表し方の意味についてです。

一日目の作業は、畑に積もった崖から流れ込んできた土砂を取るというもので、一見どれが畑の土でどれが崖からのものか分かりづらかったのですが、実際にやってみると素人目にも感覚的にここまですが崖からのものだなと感じられたので、やはり頭で考え、見る、だけではなく、実際に作業してみる、という事が肝要である、という学びを頂きました。

そして、その作業をしている時に、或いは、休みの時に、依頼主の方を何度かお見かけし、ご挨拶をさせて頂く機会があったのですが、その度に深く頭を下げられ、ありがとうございます、と心から仰られました。

その時は、泥を取るのを指示して頂いたり、瓦を運ばれたりしているのを見ていて、むしろ一緒に汗を流して作業をしている仲間のような気持ちになっていたのです、いや、そこまで丁重にされると逆にこっちが恐縮してしまふし、申し訳ないなあ、と一瞬思ったのですが、後から考えてみると、それは大きな料簡違いでした。

それほど丁重にお礼をされるという事は、こちらの働いきかんに関わらず、依頼主の方がそれほ

どに感謝の気持ちを持たれている、という事を示されているのであり、逆に、そのような気持ちに對して、こちらはどのように答えていく事が問われているのだ、という事に改めて気づきました。そしてそれは、相手がこうするからこうしなくてはいけないという受動的なものではなく、自分がこうしようという主体的なものである、ということとその依頼主のお辞儀をみて感じました。

それは、二日目に用水路の泥かきをしていた途中でトイレに行くために道路の方に出た時、社協のボランティアの方が、重い長靴をはきながら走っているのを見た時にも感じました。別におそらく歩いてでもそれ程業務には支障がないのだろうとは思いますが、その走るといふ行為に、その仕事に対する一所懸命さやその方のあり方、そしてその底辺には泥をかいているボランティアの方々への感謝の気持ちも現れているのだと感じました。

もちろん、その一瞬一瞬だけを切り取ってその人のあり方全てを判断するのは早計であるし、もしも、走らなかつた、からといってその人に感謝の気持ちがない、という事は暴論であると思いません。

しかし自分に置き換えてみた場合、そのようにたくさん感謝されて、それに対してどのように主体的に答えてきたかという事を考えると、まだまだ

だ改善すべき点は多いかと思えます。

どれほどそのことに一所懸命になれるかの重要な点として、どれほどそのことに楽しめるか、という事が重要だと思います。その意味において、今回の広島復旧活動はその活動中も、先に述べた依頼主や社協の方々、そしてなにより一緒に汗を流して活動した仲間たちのおかげで、非常に生き生きと作業を行うことができたし、また運転手さんや広島に入っていないがサポートして頂いた方全てのおかげで、今回広島に行くことができたことを感謝しています。そしてさらに、広島原爆資料館にも伺うことができ、美味しい広島焼きを食べることもでき、いいお風呂に入ることもできたのは、現地の方々の優しい思いと行動のおかげでもあります。

お風呂場においても、電気風呂でしびれている時に、「関西から来られた方ですか」「私も尼崎にいたことがあるんですよ。三か月。」と声をかけて頂き、水風呂で長風呂をしている時に「本当にありがとうございます」と仰って頂いた時には、おもわず「こちらこそありがとうございます」と、ありがとうございます返しをしてしまいました。

ありがとうございます、という言葉は、ただの言葉かもしれないがしかし、そこに感謝や慎みの気持ち、喜びや親しみの気持ちがある時には、これほど人をすばらしい気持ちにさせる言葉はないと、思いま

す。

感謝の気持ちを持つている時には、謙譲の美で押し込める、のではなく、むしろ積極的に態度で表し、ありがとう、の言葉を伝える、このことは、別に広島や復興地でなくとも、今後も日常で実践して参りたいと思います。

愛や勇氣、大義を守りたい気持ちや道を行いたいという思いなどを持つことは大切であるし、教育や他の分野においても根本的な目的はそこにあると思いますが、やはり気持ちとして持つだけではなく、それをどう実践していくか、という事が肝要で、それを学ぶためにもやはり実践が肝要であるという事を深く感じました。

人としてどう生きるべきか、特に海外においては、日本人としてもどう生きるべきか、必死に考えてきたつもりですが、今このような実践をさせて頂けるおかげで、頭でつかちな考えだけではなく少しずつではありますが、自分の肉や血となりつつあるように感じます。この「生き方」という事に関しては正に果てのないものかと思えますので、これからも多くの方々と共に実践を通じて探求して参れば幸いです。

★★奈良県 三十代 女性★★

前回の広島、今回の広島ともに、ご一緒できた

方々にいつも以上に助けて頂きました。本当に有り難く、なんて方々なのだと言葉にできない程の感謝でいっぱいです。疲れておられるのにもかかわらず、ご自身の負担そちのけで運転してください。さった西貝先生や大木先生、遠回りなんていえないほどの遠回りをしてくださった山崎先生や岡本先生、何とかと考えて下さる方々に言葉にならない感謝でいっぱいです。バスの運転手さんのお気遣いもひしひし感じました。「ボランティア」という言葉が苦手です。使用にかなり抵抗がありました。ですが、まさにご迷惑をかけた上での「ボランティア」だと痛感しています。

連れて行っていただいたこと、本当に感謝でいっぱいです。乗せていただけたから、現地で様々な学びを頂けます。こんなふうになかまに入れていただけるたび、自分をなんとか変えていきたいと思わせていただきます。

今回は二日間参加させて頂くことができ、現地の方々と同じ場で活動できた方々の姿がたくさん心に残っています。

一日目、山崎リーダーのもとお家が並ぶ道を、ごろごろした道を、歩き、あるお宅の庭につきましました。もう先発チームが庭にたまった泥を土嚢袋に詰めておられました。周りの方々の力とお気遣いの中、支えられての時間でした。住民の方々がお挨拶をしてくださるのに、挨拶を返すことしかで

きませんでした。とくに、何も言わず深々と頭を下げてくださるおばあちゃんには胸が締め付けられる思いでした。途中から、半分に分かれましました。そちらに向かう前、山崎リーダーからお話があり、そのお宅を見照らした山路先生の表情の深さに心して向かわねばと感じました。

お宅に到着し、被害の大きさを目の当たりにしました。お母さんの「ありがとう」の言葉に力がなく消耗しきっておられるのがわかりました。私はまた言葉をなくしました。こういう時、寄り添う言葉が出ない私はただ皆さんの背中を追って「丁寧に、丁寧に」と雑巾を手に取りました。日本を美しくする会の精神を大事にされる皆さんの姿にお母さんが

「雑巾でふいてくれるなんて……」とおっしゃい、

「もう、大変だったのよ。」

そうおっしゃられてから、ためておられた思いを一気に吐き出されるかのように話されました。「二階で寝ていなかったら、ダメだったのよ。もう一瞬。あれっと思つたら裏のお宅がうちに。ほら、あそこ、屋根があるでしょ。うちも泥だらけで、何にもする気にならなかったけど、ボランティアさんが綺麗にしてくれて……。ここも入れなかったの。なのに、綺麗ね。それで元気がでて。今日も雑巾でふいてくれるなんて……。」

テレビや新聞で報道されない場でこんな思いを  
されているなんて：

実際に行かなければわからないことでした。この  
バスの方々だからこの話をしてください、私はそ  
のなかまに入れて頂けたから聴かせて頂けたお  
話でした。

人は人のつながりの中でしか学べない、そして  
そのつながりで生かされていると感じました。お  
母さんが、前回来られたら方々の泥出して元気が  
でたというお気持ちが続きますようにと願いな  
がら家具を拭かせて頂いていました。そんな時、  
山崎リーダーから

「これを洗ってください。きつとこの家の方は  
フラワーアレンジメントとかされて、花が好きや  
と思うから。」

と渡されました。山崎リーダーだから気づける大  
切な物でした。私だったら心にとまっただろうか  
と思うと、沢山の大切なことを見落としている気  
がしました。洗って一つ、また一つと乾かし始め  
ると山崎リーダーの思い描いた通り、

「ああ、私ねフラワーアレンジメントとかが好き  
でね、この部屋にはこれ、玄関にはこれって作っ  
てね、全部ダメになっちゃったけど…」

と一緒に洗ってくださいました。それまで、おう  
ちや周囲を行ったり来たりし、手につけられない  
様子でおられたお母さんがご自身でされること

をご一緒させて頂くことができました。

「これ、主人のCD。ジャズがすきでね。出てき  
たから、主人が置いてあるの。食事にお金をかけ  
るより、私は花、主人はジャズ、お互い好きなこ  
とを（大切に）してきたのよね。」

大切な大切な物だけど後回しにしなきゃいけな  
い程の被害を言葉の奥に感じました。外に置いて  
ある泥だらけのCDを洗いかけるともうお昼。自  
分の手際の悪さに残念な思いでしたが午後  
から再び向かうと、第一声お母さんが

「主人が、すごく喜んでたのよ！」

とおっしゃる手にCDが。お母さんもお父さんの  
思いを大切に大切に洗われ始めました。お母さん  
と同じように洗おうと心がけました。その姿に背  
中を押され、怖くて手をつけられなかった裏を向  
いた写真に手をのびました。やっぱり、泥だら  
け…。洗うか洗うまいかなり迷いました。以前、  
南三陸で写真の泥を払い大切な写真が削れてし  
まい、それと重なり、躊躇しました。でも、洗う  
ことに。後々、その写真を皆さんに嬉しそうに見  
せられていたと聴き、本当に嬉しかったです。リ  
ーダーのおかげで、お母さんがこれほどまで笑顔  
になられ、その場におらせてもらえたことに感謝  
しました。

二日目は作業始まって以来の大人数での泥だ  
しとのことでした。人の力つてすごいなあと感じ

ました。美穂先生の「ひとりではできなくても、  
二人なら立ち上げられる。三人なら前に進むことが  
できる。みんなとなら乗り越えることができる。」  
という言葉を思い出し、胸が熱くなりました。と  
りわけ、大産大や、学生のみなさんのパワーは本  
当にすごかったです。この会の一回目から大産大  
の人達の力はすごいと毎回感じさせられます。あ  
の場にいた見ず知らずの方々みんな、思いをひと  
つにつながらながらの泥出しでした。

この二日、朝早くからニーズ確認やマッチング、  
誘導など、広島の方々に受け入れ体制を整えても  
らうだけでなく、横断歩道の立ち番、暑い中での  
案内板持ち：見えない所で動いて下さっている  
方々の存在を改めて感じました。作業後は、道具  
を洗ってくださる方々までスタンバイしてくだ  
さっていました。飲み物も沢山頂き、ふと思った  
のは一日目に出会ったお母さんのことでした。そ  
の方が二日目、作業場近くのコンビニにおられる  
と聴き、テンション高くつけて目にしたものは  
長蛇の列。作業始まって以来の大人数の方々の列  
の中に、お昼ご飯を求めて来られたお母さんと息  
子さんの姿でした。胸がつまりました。申し訳な  
くて、ご挨拶とお礼しかできませんでした。私た  
ちは飲み物を大量に配って頂きましたが、お母さ  
んたちは買い求められ：買うのにも一苦労をか  
け…。



いろいろな気持ちはまだ整理できずにいますが、向かわせて頂いたこと、皆さんから頂いたお心遣い、感謝しかありません。このように計画してくださる大谷先生、見えない所で支えてくださっている日本を美しくする会の方々本当にありがとうございます。また、次回も携われることがあるならぜひ何か…と心の底から思う三日間でした。それまで、何かあるからとかではなく、ごくごくふつうの日常を大切にしていきたいです。本当にありがとうございます。

★★大阪府 四十代 女性★★

今回広島の復旧活動に参加させていただきました。まずは関わって下さった皆さんの皆様に「ありがとうございます」と言いたい！この思いがいっぱいです。

私には、縁あって（鍵山先生から頂いた本がご縁です）前橋育英高校の荒井監督から教えて頂き、胸にずっとしまつてある言葉があります。「自分たちにできることはほんのわずかで、人にやってもらふことの方が圧倒的に多い。だからこそ自分ができることは誠意を持ってやり、人にしてもらったら感謝しよう。」この言葉をクラスの子ども達と共有してきました。そして、自分自身がこの言葉のもとで成長したいと願いながら実践に励

んでいます。しかし、今回ほどこの言葉の意味を実感・体感できたことはありません。

まず、広島行のバスは「日本を美しくする会」の皆様のご支援で乗せて頂いています。そして行程や旅館の手配をしてくださる大谷先生や中心になって動いてくださる先生方、パンの差し入れを持ってお見送りしてくださる宮崎先生や、私にとっては初対面の西宮読書会の方もおにぎりの差し入れを持ってお見送りに来てくださいました。出発するまでに多くの方のお心遣いやお支えを感じての出発でした。バスの運転手さんお二人の笑顔も私にはとても安心できることが印象的でした。

広島について、集合場所の公園にはすでにボランティアの方が数名おられました。「一列に並んでください。」と、手作りプレートを持った方。トイレの場所の表示、信号には誘導係りの方、このような方々のもとで整然と並ぶボランティア希望者たち。すごいなーと思つて時間がたつのを待ち、センターへ移動。センターの中に入ると「おはようございます」

「よろしくお願いします」「ありがとうございます」この言葉がシャワーのように降り注ぎます。それだけで涙が溢れそうになりました。それは皆さんの立ち姿の姿勢に、想いが込められていたからです。ボランティアをしたい思いで集まった人

たちを気持ちよく迎え、段取りよく活動に誘導し、気持ちよく帰って頂く、その想いがひしひしと伝わってきました。みなさん方ご自身もボランティアでいらつしやるのに、私達をお迎えおもてなしするように努めておられる姿に感無量でした。

サテライトに移動しますと、そこにもたくさんボランティアの方がおられました。その動きは見事としか言いようがありません。そして一日目の活動では畑の家主様の心のこもつたお辞儀の姿に感激し、しんどかったけど本当によかったです。少しでもお役に立てたのかもしれない。そう感じました。二日目の水路の泥すくいは、相手が見えない活動ですが、共に汗を流す仲間の空気を全身で感じる事ができた有意義な時間でした。ボランティアをさせていただけたからこそ、若い仲間がリーダーとしての心遣い気遣いを一杯さかしている姿や、その所作の丁寧さに多くの学びを得ることが出来ました。感謝しております。

活動から帰るとまた多くのボランティアの皆さんに迎えられ、再び幸せになるシャワーを浴びました。かき氷をふるまうボランティアさんもおられました。おしぼり、うがい、冷たい飲み物、すべて気持ちよく手渡され、誘導してくださいます。ほんの数時間活動させてもらったのですが、私が頂いたものは両手に抱えきれないみなさんのお気持ちでした。帰りのバスの中で聞かされま

した。道端のおばあちゃんがチョコとアメを「みなさんで！」と、「広島のためにありがとう」と、差し入れてくださいました。お風呂では出会ったおばあさんが「ありがとう。簡単にはできませんよ。本当にありがとう」何度もお礼を言ってくださいました。また、そんな出来事は仲間のあちこちで起きていたようでした。自分がしたことはほんのわずかです。でもそれを支えてくれている人の数、お気持ちは計り知れません。荒井監督の言葉を体感・実感した三日間でした。

広島で体感・実感したこの思い、自分の身近にいる人にもっと目を向けていこう！そんな風に感じました。本当に皆様ありがとうございました。

### ★★大阪府 二十代 女性★★

二週間ぶりの広島での復興支援は、二日とも嬉しい驚きがありました。

#### 【二週間前と同じ場所での活動】

一つ目は、二週間前に活動した場所とまったく同じ場所で活動できたことです。二週間前には、衝突した車が用水路をふさいでいた場所は、車が撤去されて通れるようになっていました。土砂でこぼこの地面の上や、とても狭い路地のあいだを土嚢袋リレーした場所は、重機が入り、家と家

のあいだに道ができ、そこに現れた広い空地の土砂を取るばかりになっていました。一番驚いたのは、土砂が二、三m積もって山になり、一六〇cmない私が、電線をくぐるような状態だったのに、それだけ積もった土砂がなくなり、元通りの道路が現れていたことです。もちろん電線はとても届きません。

二週間の間、毎日、地元の方とたくさんのボランティアさんとで、土砂と格闘され、少しずつ片付けられた成果を感じました。私は、その場所しか知らないのですが、全体的にみてだけなのかはわからないけれど、何十か所も同じように大変な状況の中で、きつとほとんどの場所が同じくらい復旧しているならば、「たったの二週間でこんなにも復旧するなんて、人の力って本当にすごい。それだけボランティアさんが集まってくる日本ってほんとにいい国だなあ。」と感じました。

今回は、家屋の片付けのお手伝いもさせていただくことができました。そのおたくは、先週やっとおうちにはいれるようになって、片付け始めたのだということでした。リーダーの考えで、基本的には、ぞうきんでふきあげようということになりました。泥がこびりついていたりところもありましたが、奥さんが持つてきてくださった割り箸で落としました。すぐにぞうきんが泥だらけになり、なかなかすすまなかったけれど、奥さんが「ぞう

きんでふいて掃除をしてもらえるなんて思っていなかったから嬉しい。」というお話を聞いて、早く復旧したいという気持ちもあるけれど、その大前提には、思い出の詰まったものをなんとか元通りにしたい。少しでも捨てたくない気持ちが大きいのだということを改めて感じました。：しかし、食器は割れずに無事だった食器棚には、扉のすきまに少しずつ、一番下の段の靴は全て捨てなくてはいけなかった靴箱には、下の方から、カビが生えてきていました。やはり土砂や冠水した水というのは、ただの水ではないのだということを感じました。

「このところ下を向いてばかりだったから、ボランティアのみなさんが来てくれて、こんなふうに話ができることもとても嬉しいのよ。来てくれてありがとうね。」と奥さんがおっしゃいました。本当にとっても嬉しく、また、ほっとしました。そんな奥さんが、「写真がでてきたの！ハワイで挙式した息子の結婚式の写真！」と、小走りを持ってきて見せてくださいました。その時に、奥さんのもととの明るい人柄を感じました。あと三十分で終わり。という時に、なんと息子さんが東京から帰ってこられ、一緒に玄関の掃除に参加してくださいました。久しぶりに帰ってきた実家かわりはてた姿で、きつとすぐくシヨックだろうに、まず私たちにお礼を言ってくださいました。そう

すると、二階にいらっしゃったお父さんも降りてこられました。最後には、二人で「ありがとう。」と、見送ってくださいました。帰りのお風呂でも、現地の方が、わざわざ広島まで来てくれてありがとうねと、手を握ってくださいました。話している間に、実は友達の旦那さんがなくなられてね：と、おっしゃっていました。：復旧とともに、人の心のケアも大切なことを改めて感じました。東日本大震災の時に比べ、亡くなられた方の人数があまりにも違うので、私はケアのことなどはニュース等で見ませんでした。きつとそういう対策部もあるのだと思います。

### 【二週間前に活動した仲間との再会】

二週間前に同じチームで活動した現地ボランティアの方と再会できました。一日目には、まったく連絡も取っていなかった方と奇跡の再会で、そのうえ活動場所も同じところだったので、サテライトになつている小学校でお話できました。その方は「僕は、広島だから、自分で来やすいので、復興するまでは、来続けるよ。」とおっしゃっていました。

二日目には、連絡を取っていた主婦の方と！再会、一緒に活動できることになりました。その方は、土砂災害で大きな被害を受けた方が友達にいらつしやり、二週間の間、週に三日くらいのパースで通われていて、今では、時間の融通の利く現

地受付所に行つていふことでした。

お二人の方と再会することができて、今まで全然知らなかった方々なのに、こんな風に再会できたことがとても嬉しくて、不思議な感覚でした。同じ想いを持つて、誰かのために活動をともにしてきた仲間というのは、なにか強い結びつきがうまれるのかな。と思いました。これが 絆 といわれるものなのかも思いました。

二週間の間のことをうかがいました。被災されたお友達のお母さんは、今日（九月十四日）に、二週間ぶりに、やつと自宅に入られるとのことでした。自分の家だから、気がかりなこととはもちろん、しかし、行こうと思うまで、それだけの時間がかかったとのことでした。それでも、きつとすぐく勇気を出していらつしやるし、その日は片づけをしようという気はおこらないかも。と話しておられました。また、先週に亡くなられた方の腕が見つかり、その地域は、またボランティアは入れないようになっていふとのことでした。また、二、三日前行方不明だった方が一名、用水路で見つかったことも教えていただきました。（追記 ↓とうとう数日前に最後のおひとりが見つかりました。ご自宅から五〇mほどの場所で飼い猫を抱いた状態で発見されたそうです）あのふりつもった泥土：岩もまじったそんな土砂の塊を相手に、ずっと捜索を続けていらつしやうた方々は、

すぐく緊張しながら集中して活動されていたと思います。毎日、身体的にも精神的にもとても疲れていらつしやうただろうと思います。「見つかつてよかつた。」と私は思うけれど、現実的に、遺族の方は、安心の気持ちだけではすまないし、無念の思いもわいてくると思います。人の命の重みを、また感じました。

「できる人が、できる時に、できることを」福島で出会つたこの言葉を、前回、その主婦の方にお話していたのですが、「この言葉を同じ主婦友達に使わせていただいたよ。近くてもなかなかボランティアに行くことができず気にかけていた人も多かつたから。そうしたらちようど、テレビのコメンテーターの方も使われていて。いい言葉を教えてくださつてありがとう！」とおっしゃつてくださいました。

いつも、バスでリーダーの先生が、「行けることとがいい、行けないことがいけないのはありません。」とおっしゃいます。今回は、現地でご縁をいただいた方とお話できたことで、災害からの様子も知れ、立場の違ふ方のお話も聴くことができました。また、ボランティアセンターや現地スタッフの方はボランティアが気持ちよく、より活動しやすいように、できるかぎりのことをしてください。毎日、活動されていらつしやるけれども、本部やサテライトでの活動であつたり、そ

れこそ交通整理であったり、直接的に現地の方の復旧に携わっていらっしやいません。改めて、本当にたくさんの方がさまざまな想いで、あの場所でも過ごしておられることを感じました。

私は、企画してくださる方々のおかげで、広島へ行くことができて、バスの運転手さんのおかげで現地へ行きます。行くことができないから、せめて：とおっしゃってくださる方々の差し入れをいただいで、温かい仲間の方々と活動させていたでています。たくさん感謝して、自分にできるほんの小さい量の復興支援の活動を、これからも積み重ねていきたいと思ひます。

活動を支えてくださっている「日本を美しくする会」のみなさま、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

★★兵庫県 四十代 男性★★

八月三十日、丹波市市島町の災害復旧ボランティアに行き、泥出しの作業をさせていただきました。そのお宅は裏山が崩れたため土砂が部屋の壁を突き破って中に流れ込んでいました。我が家も同じような山の斜面にあり、作業をした部屋は私の部屋と同じ位置にあります。見た瞬間に足が震えました。災害が自分の身にも起こり得ることだと実感しました。一日の活動を終えて帰る車の中

で自分のできることをもっとやりたいという思ひが強くなりました。そして「広島に行かなくては」という思ひが湧いてきました。

その直後、大谷先生から金華山へ行く予定を変更して広島へ行くというメールが届きました。こんなに早く願ひが叶うものかと思議な気持ちになりました。もちろん参加の旨をすぐにメールさせていただきました。

広島で感じたことは、ボランティアを受け入れる方々の温かさです。自分たちの生活が大変なはずなのに、「ありがとうございます」「お疲れ様」と何度も何度も声をかけて下さいました。冷たい飲み物やタオルなどだけだけいただいたでしよるか。ボランティアをさせていだいた上に気持ちよく、嬉しい気持ちにさせていだきました。でも、作業が終わって帰るとき、「自分は楽しく作業させていただき、帰ったら元の生活に戻るけれど、この方々はまだまだ元の生活にはほど遠い、それどころか大切な人や家、元の生活そのものを失ってしまった人もいる」と思うと何とも言えない気持ちになってしまいました。同じ日に自分の高校の生徒達が丹波市へボランティアに行きました。その感想文にも、「現地の人が温かく迎えてくれて、楽しく作業ができた。でも楽しいと思ひていいんだろうか」という内容のものがありました。

バスの中でみなさんの話をお聞きしていて、この「楽しかった」は、何か行動したいけれどすごく大変なことのよう思ひてためらっている人が、一歩踏み出すためのキーワードなのだと思ひました。災害復旧、復興は一人の力で何とかできるようなものではありません。だからこそ、一緒に作業をする仲間との「横のつながり」、先に作業してくれた人からバトンを受け継ぎ、次の人へ気持ちよく渡す「縦のつながり」を現地のボランティアスタッフの方が「楽しんでほしい」という心でつないで下さっているのだと思ひます。

職場に帰って同僚の先生や生徒達に被災地の現状を伝えるとともに、一歩踏み出してみれば誰にでもできることだし、やってみると結構楽しいよ、ということをお伝えたいと思ひました。一人の百歩より、百人の一步を目指していきます。

★★大阪府 二十代 女性★★

今回、初めて参加させて頂きました。ありがとうございます。沢山の方と出逢えた事、行きたいと思ひていた広島に行くことができた事、その全てに感謝しています。

この三日間、私は沢山の優しさや想いに支えられてる事をひしひしと感じました。バスや宿を手配して下さった方がいて、運転して下さる方が

いて、私はそのバスに乗るだけで参加できるという環境を作り与えてもらっているのだという事に気付かされ、なんてありがたいのだと感じながら広島に向かいました。

広島一日目、まず驚いたのは、朝早くから公園に並ぶ人の数です。待っている間続々と人がやって来て、気付けばあつという間に広場が人だらけ。こんなに沢山の人が同じ気持ちを持ってここにやって来るのか：という事を知り、なんて素敵なる事だろうと感じました。そして次に驚いたのは、ボランティアセンターの方々の温かい笑顔と優しさです。私たち以上に朝早くから来ているにも関わらず、そんな表情を見せずに笑顔で挨拶して下さったり、分かりやすい説明をして下さったり、名札シールのゴミを集めたりマスク等を配ったり：気遣い、気配りが一つ一つ本当に細かく丁寧で、気持ち良く出発する事ができました。ボランティアセンターの方々の優しさが、私のやる気と気持ちを何十倍も大きくさせてくれていたのだと、今振り返ると気付かされます。

一日目、私は畑に溜まった土砂を取り除く作業をしました。家主さんは始めに説明をし、「よろしくお願ひします。」という言葉と共にお辞儀をされました。私も「さっ！頑張ろう！」と思うと共にお辞儀をしました。そして頭を上げて家主さんを見ると、まだ頭を深々と下げられたままでし

た。私はそこでハツとし、家主さんはどんな想いで今私たちに話されていたのだろうと考えさせられました。家主さんの想いは全て、あの深いお辞儀の中に含まれており、その想いが強く伝わってきました。この一日の活動が、家主さんの力に少しでもなったら嬉しいなと思ひ、その日は作業をしました。

畑に溜まった土砂は粘土状で、シャベルで取り除くのはとても重いものでした。取っても取ってもまだある土砂を見て、これが実際に自分の家だつたら、なかなか一人では手をつけられないなあ：と感じました。

昼食後は、えっ！もうこんな時間！？まだまだやりたい所いっぱいあるのに！と感じる程、あつという間に時間は過ぎてしまいました。

私はこの活動中に、産業大の学生さん達の活動ぶりに驚かされました。学生さん達は、土砂で埋まっていた道の土を取り除く作業を担当されていました。ここは道だったのか！と思う程埋まっております、時間内に全部終わるかな？と気にしていました。しかし全く心配いらずで、学生さん達は声を出し合い元気に活動しており、道の土もすっかり綺麗になくなっていました。最後その道を通って帰る時は、とても清々しい気持ちになりました。それと同時に、若い力つて凄いな！と感じました。学生さん達が元気に活動していたため、

私もパワーを貰っていたと思ひます。

活動が終わり、帰る際に、家主さんから「ありがとうございました。」とまた深々とお辞儀がありました。こんなに深いお辞儀をされたのは、人生で初めてです。気持ちが込もっていると行動にも表れるし、お辞儀一つでこんなにも相手に気持ちを伝えることができるのだと、家主さんから学ばせて頂きました。家主さんのお辞儀は、一生忘れられないものになりました。

二日目は、用水路に溜まった土砂を取り除く作業をメインにしました。用水路に足をつけた時、思った以上に深く、思わず声が出る程驚きました。ここでの活動では、入れても入れても全然減らない泥に、始めはどうやって入れるのが一番効率が良いのかと考えながら取り組んでいましたが、段々とそんなことを考えるより目の前にある泥をとりあえずひたすらに入れることを優先する様になりました。ゴールが見えない作業でしたが、時間が経つにつれて足元が歩きやすくなり、水も増えていきました。活動中に用水路の中で、右を見ても左を見ても、ただひたすらに泥掻きをする人がいっぱい、なんだか嬉しく、優しい気持ちになりました。時間内に用水路を完全に綺麗にすることは出来ませんでした。最初と比べるとだいぶ泥も無くなりすっきりした気持ちで終わりました。

作業後サテライトに寄ると、長靴を洗う所があったり、冷たいお手拭きや飲み物を渡してくれる方がいたり、とても手厚く温かく迎えてくださり、ボランティアに来たのにして頂くことの方が多く、ありがたいという気持ち半分、何だか申し訳ないという気持ち半分、複雑な心境でした。

この三日間活動に参加させて頂き、バスに乗った瞬間から、沢山の人に支えられて今の自分があるということを強く感じました。また、色々な方々の優しさに触れ、温かい気持ちになり、幸せを感じました。

帰りのバスの中で、山本先生が「人はする事より、される事の方が多いんだ。」ということをおっしゃっていました。本当にその通りだと、全身で感じる事が出来た三日間でした。

多くの人のおかげで、今の自分がある、この事を今回学ばせて頂きました。参加できて、本当に良かったです。ありがとうございます。

★★熊本県 四十代 男性★★

八月二十日、朝のニュースを見ながら「今年も雨による災害が多いなあ」と思っていた。広島県の土石流被害は夜中に起きたもので、朝のニュースの時点では全く全容がつかめておらず、時間が進むにつれ甚大な被害であることが分かってきた

のである。ヘリからの映像を見ると、一目瞭然であり、死者の数も増えていくばかりで、すぐに広島島の先生へ連絡したのを覚えている。

その後、広島県のボランティアセンターが開設され、復旧に向けての環境が整いだし、行けるようになったらすぐに動こうと心に決めていたのだ。熊本からなので車で行き単独で行くこと、平日がボランティアの人数も少ないので平日には是非行くかと考えていたのである。しかし、フェイスペインクなどで現地の状況が分かり、県外者の個人参加はできないということと仕事の日程などで断念せざる終えない状況になったのである。絶対に九月第二週までには一度足を運びたいと考えていたので、行ける方向性を考えていたら、部活動の練習試合がキャンセルになったことと、大谷先生方が現地に行かれる日がマッチし、すぐにメールを送り参加させてもらえるようになったのである。

何事も自分の目で見なければ、自分の胸に落とし込むことはできないという気持ちで様々な活動に参加するようになったが、今回も同じであった。広島に到着し、駐車場となっている古市小学校へ一番乗りをし、開門をまつていたが六時半頃から国道に数多くの車が止まりだし、喜びが湧き上がってきた。私の後ろで待っていらつしやつた広島の方とボランティアセンターまで話しをし

ながら行ったが、先週参加して広島人が少なかったことがショックで今週も来ましたということであった。「広島人何しとんじや」という気分です」まだ復興していないのに、何事もなかったように月日が進み、地元の人でも被災された方以外の人の気持ちに寂しいということも話しをされていたのが印象的であった。

活動場所に行き、被災をされた方の家へ行ったが全く手が着いていない状況であった。周辺は小さな重機がやつと使用できるようになって、重機が進むための道路を何とか確保し、少しずつ土砂を運んでいる状況で、家々を綺麗にしていくには絶対に人手がいるし、時間がかかるなという印象であった。担当した家も一階部分の居間が土砂で押しつぶされており、そこで就寝中であった家の方は間髪で助かったということであった。土石流が発生し押しつぶされたままの状況が目前にあり、言葉にならなかった。またコンクリートでできているシャッター付きのガレージも土砂に押しつぶされていたが、シャッターごと車もつぶされて、半分の大きさになっていた。車の天井部分だけが見える状況で、いつになったらシャッターの撤去、車の撤去ができるのか分からない。「丁寧にやりましょう」リーダーの山崎先生の言葉でチームが動き出し、ひとり一人の方が自分のできることを一生懸命にされていた。なかでも



山路先生の動きはいつも私の心に火を灯して下さるのである。丁寧な中に、本当に心のこもった動きをされていて、一緒になるたびに学びを頂いているのだ。また、久しぶりにお会いした光岡先生も同じであった。一緒に活動させてもらい、デッキブラシで磨かれる先生の姿に感じるものが沢山あり、自分自身を見つめながら活動させてもらった。

広島は始まったばかりです。東北と同じで継続していく必要があります。「できる時に、できる人が、できる事を」続けていきましょう。

いつも大谷先生ありがとうございます。今回も参加でき多くの感じるものがありました。今後に活かしていきます。宮崎先生、西宮掃除に学ぶ会の皆様、差し入れを頂きありがとうございます。とても力になりました。

★★★京都府 四十代 男性★★★

本当にすべて用意してもらったレールの上で、「させていただいた」三日間でした。

東北にも何度かこのバスに乗せていただいていたのですが、いつもは高速のSAから合流で、今回、初めて尼崎から乗せてもらいました。何から何までの準備、お見送り、差し入れ。みなさんが続々と集まってこられ、人数は多いのに

一体感があって、あたたかくて、あのバスのままの雰囲気はロータリーにも広がっていました。ここにいられる幸せに改めて感謝しました。

今回は行きのバスの中で、「心を空っぽにして作業させていただく」「頭で考えない」「無心で」と多くの方が仰っていて、自分も、余計な事を考えず、目の前のことを精一杯できたらいいなと漠然と考えていました。

初日の作業は、畑に積もった土砂を取り除く作業でした。約三週間経ったそれは、表面が乾き、数センチ〜数十センチ積もっていて、乾いたところはひび割れていました。横にはJR可部線が通っていて、線路は地面から三〜五メートル高い堤の上を走っています。土砂は当日、その高い堤を越えて畑に殺到したそうです。今でも一部に崩れた跡があり、大きな補修がありました。

その向こうが山で、山の標高自体はそんなに高くはないけれど、とにかく急で、ここから見ただけでも何か所も土砂崩れの跡がありました。山の中腹からのものや、山の山頂付近からのものもあり、爪でひつかいたように茶色い地肌が山の緑の中に痛々しく見えました。本当に、すぐそこに見えました。

なぜあんな山の急勾配の所に宅地造成をしたのだろう。地盤とかそんなこと考えずに、儲けを目的とした都市計画で、人災とも言えるのではな

いか。そんなTVのコメンテーターのセリフに「本当に！」と、ここに来るまでは安直に頷いていました。

でも、そんな単純ではないと知りました。

昭和二十年八月六日。原爆が落とされた広島市街地。何とか生き延びた人たちは、住む場所を求めて、放射能の影響が残る爆心地から少しでも離れる為に、郊外へ、山の方へ住宅地を広げていかれたそうです。市内にもバラック等はあったけれども、本格的に市内に住居が戻ってきたのは二十年以上たった昭和四十年代とか。何でも、そんなに「単純ではない」と恥ずかしくなりました。

ボランティアセンターから、作業現場までシャベルを持ちながら歩いて移動していると、「ありがとう！」と道行く車の人が。「わざわざ広島のために来てくれて！」と口々に声を掛けてくださいました。帰りのバスの体験発表でも、お風呂屋さんでもお店屋さんでも、本当に色々な所で感謝の声をかけてもらったと聞きました。

ボランティアスタッフの方々の中でも本当にピカピカの宝石でした。安佐南区の総合福祉センターの地下に一行で行ったとき、「おはようございます！」「ありがとうございます！」本当に口々に、笑顔で、みんながシャワーのように、温かい声をかけてくださいました。それだけで、涙が出そうになりました。あたたかさがずわ

「つと伝わってきました。こんな経験なかったです。高齢の方も、若い人も、女の方も、男の人も、子供さんも、みんなみんな、なんでそんなに笑顔で、つて思うほど幸せな気分になりました。」

本当に「準備された」中で、させていたいただいた感謝しか思い出せません。素晴らしい「おもてなし」を受けた感じでした。

「自分って弱くて、自分勝手やな。」と反省することもありました。二日目、日曜日の午前の作業でした。「今日の作業は、土のう袋をひたすらトラックに積み込む作業です。」そう聞いた時「え〜しんどそう……」そんなネガティブな気持ちがあふいてしまいました。現場に行ってみると、今度のはほとんど土のう袋が無くて、それなのに何グループもバッテリーが置いて、作業は一瞬で終わり、やることがない人があふれていました。リーダーが連絡を取って下さり、先ほど来た道を徒歩でもう一度ボランティアセンターへ逆戻り。その時、ふっとした心の隙に、「ちゃんとセツティングしてくれたりいいのに……」という、自分勝手な声が沸いてしまいました。

でも、よくよく考えたら、この広島に来たのは、現地で困っている人のほんの少しでもお役に立てたら、ちよつとでも何かできたら、つて思いで来たはず。

それなのに、与えてもらった役目が、しんどそ

うとか、直接人と触れ合う作業じゃないとか、やるのが少なすぎるとか、……そんなふうには、「自分のやりがいとか、達成感を得たい」なんていう「自分勝手な気持ち」が出てしまつて、「無心で」つて言っていたのに、本当に、恥ずかしいです。

仕事のことを少し思い出しました。私は高校の教師をしています。今、担任ではなく他の先生をサポートすることが多い立場になって、生徒ともつと直接、接することができるようになって、生徒とも思っていました。でも、学校とか、組織とか、物事には「役割」があつて、誰かが必要な役割をする必要があつて、その役割ごとに、やっぱり人との触れ合いの多い少ないはあつて、それはやりがいとか、達成感とかに影響はするけれど、それでも誰かがその「役割」をしなきゃならないと、今回、思えるようにさせてもらいました。

山本先生が、「自分がしていることより、人にしてもらっていることの方が多いよ！」と、子どもたちに話されたと聞きました。ボランティアに来て、してもらつてばかりでした。

それでも、体験発表で皆さんの体験を聞き、感想を聞き、自分の中で、もやもやしていた塊が、ちよつと溶け、ふわふわして、そして、「あつ！」こうだったんだ、感じたことは！ と他人の言葉で分かせてもらいました。そして、少し時間をおいてこうして体験記を書きもう一度振り返る。

本当にありがたいです。

参加させていただき、本当にたくさんの方の学ばせていただきました。ありがとうございました。

★★大阪府 二十代 女性★★

【真のボランティア】

こんなにも優遇されているの？  
何をしに来たかわからない。

最初の印象でした。

しかし、事が進むにつれわかる、ボランティアの受け入れ体制を整えることの重要性。集まった人の思いを最大限に引き出すには、どう受け入れるべきなのか？そこを十分に考えてくださり、非常事態にもかかわらず、整えられた環境は、現地ですつと変わらなずにボランティアが続けてくださる方々がいるからだ、実感することができました。

実際に活動する私たちよりも、広島復興の要となるであろう真のボランティアの人たちの姿を拝見し、みなさんがおっしゃる「いつてみてわかることがある」という意味を実感しました。

飲んでも飲んでもなくならないペットボトル。休んでますか？

トイレのバスもうすぐです。

五分活動して、二十分休憩でもいいですよ。  
休んでください。

水分たりてますか？

どの言葉も優しさ、気遣い、温情でいっぱいでした。ここまでのことができる、ボランティア活動を支えるボランティアの方々が、真のボランティアなのだと感じました。

【空っぽ】

何も考えない。これほど難しいことはありません。しかし、無我夢中で目の前のことを果たそうと、動いているとそれが可能になることを実感できました。それは、一日目に田畑を綺麗にさせてもらえたからです。体をずっと動かしていると、余計なことを考えません。自分の体を動かしてみると、いかに自分が日頃、体を動かさずに、頭を動かしているのがわかります。頭で考えず、素直に感じられる人になる手がかりをいただいたように思います。

【体験発表より】

体験発表を聴くたびに思います。同じ場所で、同じ時間、同じ活動をしていても、これほどまで感性は違いを見せるものかと。それと同時に自分の感性の浅さにガツカリします。これまでいかに生きてきたかを思い知る体験発表の時間。今回も自分と向き合うことのできる時間をいただいております。

みなさんの体験発表をメモしながら、自分のたりないところを埋めようとしている自分。

みなさんの体験発表から、自分にはない視点を見出そうとしている自分。

みなさんの体験発表を拝聴することで、今回の活動をより深いものにしようとする自分。

こういったことをしている自分は、まだまだ実践の人ではなく、頭で考えている人なんだろうなあと気づかされる自分。

どうしたらみなさんに近づけるのかと、あせる自分。

あつ！また心が空っぽじゃない。と気づく自分。いまの自分には、ここまでしか感じる力はないけれど、新たな自分に出会うため、これからも実践に重きを置いて励んでいきたいと思えます。いつも何度でも、ありがとうございます。

★★大阪府 二十代 男性★★

【同期とともに】

今回、初めて同じ職場の同期を誘いました。普段職場では、石巻や南相馬の話もあまり出来ずにいる私ですが、声をかけると、すぐさま「行きたくない」と答えてくれました。きっと何だかよくわからない状態なのについて来てくれて、心から嬉しい気持ちでした。鍵山先生がいつもおっしゃる

「一人の百歩より百人の一步」には程遠い「二人の一步」。しかし、私にとつてはかけがえのない仲間ができ、心強いばかりです。皆様、ありがとうございます。

【一步目のスピード】

大谷先生の一步目のスピードにいつも感動してしまいます。八月にも福知山や広島に行くお知らせのメールを頂いていたのにも関わらず、参加出来ずにいる自分がいました。自分の一步目のスピードの遅さ。0.2秒で返事ができない自分の心の弱さ。しかし、大谷先生は光のような速度で動かれます。無駄ばかりある自分を直していきたいです。

【地下水のような何か】

どこからそのエネルギーが湧いてくるのだろう。「ありがとうございます」と頭を下げてくれる受け入れる側のボランティアの方々。それも一人二人ではありません。手渡される数々の飲み物や塩飴。作業後には、長靴を洗うコーナーに始まり、手洗い、うがい、冷たいお手拭き、冷たい飲み物、そしてかき氷まで。どうしてここまで出るのだろうか。この人たちを突き動かしているものは一体何なんだろうと思いました。行動を起こすのは、頭でも、心でも無いのかも知れません。それよりももっと深いところで、人間の根底の部分に流れている地下水のような何かがあるよう

に感じました。活動に参加することは出来ないけれど、お見送りだけでも駆けつけて下さる方。

お迎えにも来て下さる方。少しだけと言って、チョコレートを下さるおばあさん。皆様のお心に触れ、肝心なとき、体に流れる地下水が行動を起こすのだと感じました。日本人にはきつと美しい地下水が流れているのだと思います。一步目のスピードが遅くなると、自分の中の地下水も濁っていつてしまうのかなあと、ボランテアセンターで、そんなことを考えていました。素晴らしい方々に会い、私も良い人間になったかのような気分ですが、私は何も出来ない人間であります。まずは一步目のスピード。そこから全てが始まりますので、一步目のスピードを上げ、自分の中の地下水を清らかなものにしていきたいです。

今回も、日本を美しくする会の方々に影で支えて頂き、貴重な体験をさせて頂きました。感謝の想いでいっぱいあります。ありがとうございますました。

★★★大阪府 四十代 男性★★★

日本を美しくする会の皆様、ありがとうございます。「ボランテア活動に行くのではなく、被災地という場をお借りして、人としての生き方を学ぶ会」を通していつもたくさん気づきと感動

をいただいております。

今回は、東北ではなく、広島豪雨災害復旧活動のお手伝いに広島へ連れて行っていただきました。たくさんさんの報道を目にし、個人で行きたいと思っておりましたところ、この会で、多くの皆様と行かせていただけることになりました。バスに乗れば、指示にただ従い動いていけば、間違いなく活動に参加することができました。

いつもバスの行きと帰りに、体験発表が行われます。そこで、参加者の皆様の発表を聞き、自分個人では、見つけようのない気づきを教えていただきます。体験発表の中で、とても多くの方がおっしゃっていたのが、ボランテアを支えるボランテアの皆様のお姿についてでした。出発の時には、頑張ってくださいと熱く、そして温かく送り出していただき、戻ってきたときには、望外なほど、大きな声でありがありがとうございますと声をかけてくださいます。本当に温かく幸せな空間です。ボランテアに出る我々はさながら、ドイツニールンドのアトラクション待ちをしているようだ。また、アンパンマンの世界に来たようだ。あるいは、天国のようだ。と多くの参加者の方々が感じました。私にとってもボランテアセンターは、優しさと思いやりに満ちた空間でした。

関西に帰り、終電に乗って帰ると、背後から「死ね、気持ち悪い」との声が聞こえました、同じ車

両に乗っていた少し派手なカッコをした若い女

の子の二人組が、座り込んでいました。何とはなしに耳から入っていた言葉で状況を理解すると、電車の遅さに悪態をついていただけなのですが、その選んだ言葉が、悪意はなくても、心が寒々としてしまいました。あの優しさと思いやりの桃源郷のような世界から、急に現実世界に引き戻されてしまいました。親は、どんな教育をしているのだ。と一瞬思ってしまったが、きつとこの子達は、きちんと関心をもって育ててもらえていなかっただけなのだろう。親御さんは、若者特有の突っ張った感情だご理解されているだけなのかもしれないと思いました。

遊び疲れ、満員の電車についつい悪態をついたのでしょうか。自分の言葉で表現するのに、なんでも「死ね、気持ち悪い」と表現するポキャブラリーの少なさと、その幼さに暗い気持ちになってしまいました。この子たちは、まだ若く、誰かがきちんと教えてあげなければいけない。それをやる手だてはないものかと老婆心にも考えてしまいました。

私が今回感じたものを一つあげると、「ボランテアが整うということ」です。

東日本大震災を契機に日本中の多くの方がボランテアを身近に感じるようになりました。様々な被災された地域で、ボランテアセンター

が設置され、ノウハウも蓄積されています。そこに多くのボランティアが日本中から参加するようになってきています。

広島では、多くの広島市民の方々が、自分の休日を利用して参加され、広島以外からも我々のようにバスで参加する多くの方々もあり、あるいは、居続けてボランティアをなさる方もいらつしやいます。当初から、ボランティアセンターが設置され、組織立ててボランティアを上手に動かしていらつしやいます。そしてそのボランティアを支える多くのボランティアの方々が一生涯懸命に動いていらつしやいます。二週間前にも、一度広島へボランティアに来させていただいたのですが、その時にボランティア活動の整い方に感動したのですが、時間の経過とともに、崩れるのではなく、組織がより機能的に、良い方向整っていくさまに、ボランティアの方々の影でのご尽力を感じ、感動いたしました。

現実では、幻滅することも多いのですが、困った時に手を差し伸べようとする、良き心をもった方々が集まるところもあるのです。良き人たちとご一緒に活動させていただいても本当にありがたいことです。これからも被災地に心を寄せ続けていきたいと思っております。参加者の皆様、お世話になった皆様、日本を美しくする会の皆様、広島県のボランティアの皆様、本当にありがとうございます。

ございました。

★★大阪府 三十代 男性★★

今回、広島での初めての復興支援活動でした。今回に至るまでに先にルールを敷いていただき、現地までお連れいただいた方々に感謝いたします。ありがとうございます。

一日目。八時半からの受付スタートにも関わらず、七時半で広場が埋まるほどの行列ができていました。日本も捨てたもんじやないなあと感じました。センターではボランティアの方々がお辞儀で出迎えてくれました。心が熱くなったのを覚えています。説明を受け、マイクロバスで移動。場所は八木というところでした。直前まで何の変哲もない街だったのに、現地に入るとその惨状に目をみはりました。朝九時に作業を始め、午前中は住民の方の庭の泥出しをしました。二十五分作業して五分休憩。あくまで無理なく続けました。作業をしながら、相談して効率的な方法を編み出していきました。午後は砂まみれになったお宅の部屋の掃除をしました。はじめ、ご家族は非常に厳しい顔をされていました。リーダーだった山崎先生の「すべて丁寧にしていきましょ」とおっしゃったのを聞き、とにかく丁寧に、を心掛けて作業しました。水野先生や山路先生、石崎先生らの

働き掛けもあり、お母様の表情が次第に柔らかくなっていくのを感じました。このままの状態再び住まわれるかどうかは分かりませんが、十五時まで作業させていただきました。

夜は旅館の方々のご厚意でゆっくり休めました。後で分かったことですが、私たちの飲み物代として金一封を包んでくださっていました。私たちがやっているというより、まわりのお陰でさせていただいているのだと実感できました。

二日目。昨日と同じように七時過ぎから並びました。最初に紹介された仕事ですぐ終わってしまうなど、活動ができないままになるかと思いましたが、その後仕事が決まり、二メートルほどの幅の溝にたまった泥をシャベルでかき出し、土嚢につめる作業をしました。かなりの大人数でやりましたが、泥はかなり重く、何層にも重なってなかなかの重労働でした。しかし、今後の継続的な活動できれいになってくれるといいなあと思います。

今回の活動で、現地に住まわれる方々にたくさん「ありがとうございます」をいただきました。自分皆さんのおかげで現地に向かわせていただけたのに、です。自分自身、まわりの方々とのつながりをもっと深く意識し、日々を丁寧に過ごしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

★★奈良県 二十代 男性★★

『自分のなかの何かを変えたい』そのような思いをもって今回のボランティアに参加しました。ボランティア活動自体は初めてだったので、最初はとても不安を感じました。バスに乗ると、一人ひとりが思いをもってボランティアに臨んでいることを知りました。広島に着くと、ボランティアをする人が集まる場所に行きました。すごいたくさんの方がいて、『こんなにボランティアをしようと思っている人がいるのだな』と実感し、ここで初めて人のあたたかみを感じました。ボランティアセンターに行くと、ボランティアの人に対しての心配りに感動しました。軍手やマスク、飲み物など必要なものを揃えてくださいました。ボランティアセンターの人たちもボランティアなのだということを知って、おどろきました。被災地に足を運ぶと、畑は土砂で覆われていました。その土砂を撤去すると、その家の家主さんがお礼を言いに来てくれたのですが、その一礼はとても深く、感謝を体全身で感じ取ることができました。ありがとうの重みが違います。広島を出るときには、見知らぬ人に『ありがとう！あなたたちのこと絶対忘れないよ』と声をかけられました。思わず鳥肌が立ちました。

このボランティアで、人と人とのつながりは本

当にあたたかいものだと感じました。そして、今わたしたちが生活できていることはとても幸せなことであると同時に、その生活ができていることに感謝をしなければいけないと思いました。小さなことにも感謝を忘れず生きていきたいです。一刻も早く被災地の方が元の生活に戻れることを心から祈っています。本当に素晴らしい経験をさせていただいております。ありがとうございました！

★★愛知県 四十代 男性★★

初めてのボランティア活動、いつも同僚の先生に誘われていたが、「今回は行こう」と想い参加しました。

朝七時にボランティアの集会所の公園へ着きました。なんと三十人くらいの方がもう並んでいました。朝八時頃には、公園がいっぱいになるくらいで、朝早くから被災地の為に行動する人がこんなにいるなんて、すごいと思いました。

丁寧にボランティアセンターに誘導され、手続きを終え、バスへ移動しました。その間にもセンターのスタッフに「おはようございます」「よろしくお願ひします」などの声をかけて頂き、その言葉が感動して一日の活力になりました。バスでサテライトへ行き、バスと徒歩で活動場所に到着しました。

今回は、畑の土砂を土嚢袋に詰めて運ぶ作業です。リーダーが依頼主と打ち合わせをしながら、グループに支持を出し作業をしていました。みなさんの手際の良い行動に引つ張られて、いつも以上に頑張り疲れませんでした。五時間の作業時間でしたが、あっという間に終わりました。他のグループとも合流して作業をし、グループを越えた協力や手助けがありました。依頼主の為にみなさん「丁寧な」作業を心掛けて行っていました。リーダー・サブリーダーの力、チームワーク、大阪産業大学の学生のパワーと集中力などで作業前と見違えるほどきれいになりました。「人の力のすばらしさ」たくさんの方が集まれば、機械にはできないきめ細かな丁寧な作業ができることを改めて実感しました。

作業終了時には依頼主より「ありがとうございました」と深々とお辞儀をされました。こんなに感謝されると思ってもいなかったもので、本当に感動しました。

サテライトへ移動をし、スタッフの方にたくさん「お疲れ様でした」と言ってもらい、冷たいタオルや飲み物などをもらい、感動しました。バスで移動して、ボランティアセンターに戻ってきました。そこでも、スタッフの方にたくさん「お疲れ様でした」と言ってもらい、長靴を洗って拭いてもらい、冷たいタオルや飲み物などをもらいま



した。最後に小さい女の子と母親に「お疲れ様でした」と熱中飴をもらいました。その時感動で涙が出そうでした。その後、その子は父親と母親と帰って行きましたが、父親はボランティアに参加をしていました。ボランティアには、ボランティアを支えるボランティアもあつたのを知りました。

二日目は二〇〇mの用水路の土砂出しを多くのグループで協力しながらの作業です。サテライトより徒歩二十分歩き移動しました。その時に車から手を振りながら「広島のためにありがとう」と言ってもらい、感動しました。みなさん水に濡れながら、一日目の疲れも感じさせずに、水分の吸った土砂を土嚢袋に詰めて運びました。ここでもグループを越えた協力や手助けがありました。みなさんに引つ張られながら何とか作業をしていき、リーダー・サブリーダーの力、チームワークで作業前と見違えるほどきれいになりました。今回もサテライトとボランティアセンターで温かい声掛けとおもてなしをしてもらいました。今回体験して、ボランティアの大切さ、広島の人々の温かい言葉やおもてなし、人の力のすばらしさを感じました。感動をした日々を送れたことを幸せに思います。

被災地に足を踏み入れてみないと分からないことも多く、感じると思うことがたくさんありました。まだまだ被災地には困っている人がたく

さんいて、人の力が必要だと思いました。継続的に大勢のボランティアが被災地に行き、困っている人を全部解消することが大切だと思いました。大谷先生をはじめ、支援して頂いた皆様、参加した皆様本当にありがとうございました。無理を言っても快く送り出してくれた家族に感謝したいと思います。今回の経験でこれからの生活に役立てていきたいと思っています。

★★大阪府 四十代 男性★★

今回初めてボランティア活動に参加させて頂きました。以前から東北震災のボランティア活動にも興味はありましたが、団体で参加するのは抵抗があり、個人で参加する行動力もないため、結局参加することはありませんでした。しかし広島は、父親の出身地であり、私自身も学生の頃に夏休みを過ごした思い出の地でもありましたので、どんな形でも活動に参加したいと思っています。今回この様な機会を頂いたことに感謝しております。

活動としては、一日目は民家の畑の泥を除去する作業。二日目は住宅地の溝の泥を除去する作業を行いました。

今回の活動で一番感じた事は、広島側のボランティアを受け入れる体制が非常に素晴らしかつ

た事です。いろんな所にボランティア人の気持ちや健康を気遣う配慮がされており、本当に気持ちよく活動を行う事が出来ました。今回の経験で、やはり行動して現場で実際に体感することの大切さを改めて感じましたので、また、チャンスがあれば色々と行動に移していきたいと思っています。最後になりましたが、活動に関わって頂いたみなさまに感謝を申し上げます。ありがとうございます。

★★大阪府 五十代 男性★★

九月十二日(金)から十四日(日)の広島市安佐南区八木地区への豪雨災害復旧活動に四十二十一名で参加させて頂きました。前回の八月三十一日に続いて参加できる機縁を得られたことをありがたく思います。出発時に今回も西宮読書会の北口恵美子様、長谷川伸江様の手作りのきゅうりのきゅうちゃんとおにぎり、大阪産業大学野球部の宮崎正史監督よりパンと多くの差し入れを頂き、ありがたく十三日の朝食に頂きました。前回、生まれて初めておにぎりを食べる時にありがたい思いを感じ涙がでてきましたことに思いが重なりました。広島行の貸し切りバスは、今回も日本を美しくする会のご厚意によるバスで行かせて頂きました。これらの感謝のできことの連

続で、普段から気づかずによくの色々な方にお世話になってることを再認識させて頂く出発となりました。おかげ様で”とは、知らず知らずを受けている恩愛に対する言葉なのだと感じました。できる人ができることを役目に応じてお互いさまで気張らずにする、”絆”や”つなぐ”こととの大切さやありがたさを体認しました。この活動のご縁をむすんで頂いた大谷先生や大木先生を初めとする段取り・準備して下さった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

出発後のSAで何気なく声をかけたヒッチハイクの上林君、サツカーで培ったさわやかなハートを持つ大学四回生でした。小谷SAで降りて予定通りにヒッチハイクを続けてとの大谷先生からの申し出にも、ヒッチハイク旅行の時期と大学の友達が団体で広島でボランティアする期間がぶつかり参加できなかったのも、これもご縁と予定を変更し初日のボランティアに参加してくれました。人との出会いの不思議を感じさせる青年でした。

彼に限らずボランティアに参加する多くの若者を見ていますと偉そうなことを歳が上だからとだけで言っている自分が恥ずかしくなりました。人は、自らの氣づきによって初めて継続的に行動をする。自らを変える氣づきのきっかけを与えるのが長く生きているものの役目かなあとも

感じました。ボランティアに集う人たちには、小学校四年の子供を連れて来た親子や高校生の団体も多くいました。又、女性が十二名一組のリーダーをしているのを見、今の時代だからこそその良さも感じました。ボランティアに参加される方は、皆さん晴れやかな顔・すてきな笑顔で集まっておられました。又、ボランティアのお世話をされる方々もかなり組織的にされていました。お出迎えが笑顔と大きな声で挨拶を頂きました。心が晴れやかに元氣を頂きました。物品提供・裏方でのお世話・実際の活動と色々な形、自分ができる形でボランティアができるのだと実感しました。

《初日の作業》初日の活動は、偶然にも前回と同じ八木八丁目三十二番地あたりの土囊詰めと運び出しでした。前回もおられた地元の方とも再会しました。自宅の被害は無い方ですが、二週間以上会社を休み作業しておられる方でした。今回は、二週間前には無かった重機が入っており復旧活動がはかどり始めているのを感じましたが、まだまだこれからだと感じます。

昼休みには、氣になつていた被災に遭われた細野神社の様子を確認しに行くことができました。拝殿・本殿を掠めて絶壁となつている土石流の痕は、絶句するしかない状況でした。絶壁に見える地層には、散乱している岩を多数含んでいる層もあり、過去の土石流の痕かなあと感じました。な

ぜ、拝殿と本殿だけが残つたのか？なぜ境内が今回被害を受けたのか？このことをどう受け止め、今回の災害で何に気づけということなのか？自分にできることは何か？に思いを巡らしています。現場に戻るとリーダー山崎さん心遣いの”ガリガリ君”のキャンディーを頂け思わず微笑みながらありがたく頂きました。

初日の作業場は、元は駐車場であつた所であることが復旧するなかで判ってきました。土砂が取り除け、開けられなかったガレージが開くと、被災された方から、「半年は無理だと思つていたのが、こんなに早く片付いて嬉しい。」との話を伺え、少しはお役にたっているのだなあと嬉しく思えました。

土囊を運び出すがもう少しでしたが時間となり、我々は引き上げ初日の作業は終わりとなりました。

この被災地は、亡くなられた方がおられなかったそうで重機や自衛隊や消防団の方の力が回すことが、なかなかできなかった地域であることが八月三十一日に電線が手の届く位置にあることと感じました。こういったところには、生協や病院や教職員の労働組合の団体の方が、社会福祉協議会とは別に多数来られていることが腕章から判りました。

《広島は今》福島でお世話になつた広島出身の

半田さんとFBでやり取りをし、「是非、平和記念公園に行き、復興地の復活の最先端広島をご覧になって下さい。見られると人生観がきつと変化し、気づきがいっぱいだと思います。」と勧められたのですが、おかげさまでぎりぎり間に合い、なんとか三十分間平和祈念館の2度目の見学をすることができました。人間には、してはいけない領域があるとあらためて感じ、文明に潜む人の業の深さも感じました。見学後、平和記念公園を回り出て、事前に調べておられた先生のおかげで五人で広島焼きを堪能させて頂きました。

《二日目の作業》二日目も初日と同様に集合場所の公園にAM七時頃から並び、マイクロバスで作業所に連れて行って頂きました。初めの作業場は、着いた時には、すでに前の班の方で作業が完了しており、新たな作業場に移動となりました。日曜日ということで多人数での作業が必要な八木八丁目の用水路の土除けが作業となりました。作業は、上流から順次下流へ人が分担配置され、堆積した土砂除きから土嚢つめまで効率良くできたように感じます。用水路の底には、ヘドロの堆積がほとんどなく、きれいに維持されていた用水路であったことが伺えました。生態系を乱すといけないので難しいでしょうが、蛍の放流がゆるされるのならしてみたいと感じました。また土嚢つめにも色々なやり方があるなあと感じた作業

でしたが、活動が進むにつれ作業方法が進化していく一端を感じました。

《温泉休憩》作業後、温泉にバスで向い、汗を流させて頂きました。地元の利用者の方とも話す機会があり、当日の雷が鳴りやまなかった様子などを伺いました。又、東京の鍵山塾にいられた先生に偶然逢うという奇跡を見、天が喜びを示してくださったのかなあと感じました。普通に汗を流し、リフレッシュできる日常見過ごしがちな当たり前のことのありがたさも感じました。

《最後に》できるだけ一所懸命に仕事をさせて頂きました。が、地元の方の気持ちに寄り添って作業ができたのか、非常に心もとない所があります。この経験を活かして何の為にこのボランティアに参加できたのかの意義をこれからも考えつつ生活していきたいと思えます。

これだけのボランティアに従事した人間を雇うとなると一体いくらかかるのだろうか？と自主的にボランティアにいられている多くの若者を見て日本の将来に希望を感じ、日本人に生まれて良かったと感じました。そして、日本の役目は“一所懸命とは”何かを考えさせられると共に、“人は、皆役目があり、おかげさま、お互い様で繋がっている”と気づかされた三日間でした。ご縁を頂いた皆様ありがとうございます。

★★大阪府 二十代 男子大学生★★★

広島にボランティアに行かしていただき色々と感じたことがたくさんありました。僕は、以前丹波市、福知山市の災害のボランティアに参加させてもらった時に団体のリーダーをさせていただいて、災害を受けた家のところにボランティア行くとそこでその家の人といろいろ話を聞くなかでやはり若い力が必要で、さらにボランティアに来てくださってる方々に本当に感謝してますととても深々と仰っていただいてさらにそのボランティアが終わったあともありがとうございましたと深々と挨拶していただいてそれがとても印象に残っていてそこで色々学ばせていただいたことや経験を広島でも活かしてあげたいと思ひ参加させていただきました。

大阪便教会の方々と尼崎から一緒に行かせてもらいバスの中での話や先生方の決意など聞いて僕も改めてボランティアに行くんだなと思ひましたし広島の人のためにもこの体を活かして頑張りたいという思いを持って広島に行かせてもらいました。そして広島につく直前に高速道路を走っていてそこから山の方を見るとところどころ上の方から下にかけて土が見えているところがとてもたくさんありこれは、すごいなと思ひさらに自然の力は、すごいなと感じました。そし

て福祉センターに着くとそこでは、ボランティアの方々から僕達の誘導をしていただき何から何までやっていただいて受付をすまし現場へと向かいました。

現場に行くところは、もう考えもつかないくらい景色でした。住宅地だったので土砂が積つていたところどころつぶれていて、土砂が積つていました。そして家のガレージには、土砂が膝くらいの高さまで積つていてそれを土嚢に詰めて運び出す作業をしてそこで土嚢を運び出すところで僕は、作業をしました。そこでは近所のおじさんがいて、そのおじさんと一緒に土嚢をリレー形式で運び出しました。そのおじさんを見ると汗だくになりとても必死に運ばれている姿を見て僕も頑張らないといけないなと思ひ必死で時間いっぱいまで土嚢をリレーしました。そして時間ギリギリまでやるとそのガレージにあった土嚢は、なくなりとても綺麗にして一日目の作業を終えることができそのおじさんとても笑顔を見せられていたところがとても印象に残っています。

そして旅館にもどり旅館でも旅館の方々がボランティア頑張つて下さいと感謝の気持ちを持ただいて二日目のボランティアに向かいました。二日目は、溝にたまつた土砂を四〇〇人くらいで手分けして土砂を土嚢に入れては、ダンプが来れるところまで運び繰り返しの作業をしました。そ

して時間ギリギリまでして、少しは綺麗になり作業を終えることが出来ました。そしてまた受付をしたところにもどると使ったスコップは、洗つていただき何から何まで本当にボランティアの方々がして下さつて本当にすごいと驚きました。

そしてバスで尼崎に帰ってきました。その帰りのバスの中では、今度は、活動報告を一人ずつおこなつて色々僕が知らないことを聞けたりしたのでとても良かったと思ひました。さらに先生方の話方がとても伝わりやすく、分かりやすく僕も見習つていけないと思ひました。

今回のボランティアでまた自分を知り、また磨けることができたのでとても良かったと思ひますし、色々な人と交流でき人のために作業をしつかりとできたので良かったです。本当にこういう機会をくださった大阪便教会の方々に感謝しています。あと一緒にさせていただきました先生方にもとても感謝しています。三日間ありがとうございました。また僕は、石巻に行ったことがまだないので機会があれば是非石巻でもまた広島でも行かしていただきたいです。この体を活かしていけるように頑張ります。本当にありがとうございます。

★大阪府 二十代 男子大学生★

今回二日間の広島復興ボランティアに参加させていただいて、また多くのことを見て、感じる事ができました。僕は、今回の参加で二回目にりましたが、前回のボランティア活動とは違つた場所で作業させていただきました。前回の八月末日にいかせていただいたときは何名かの方がなくなつた場所の土等を撤去しましたが、今回は、亡くなられた方はいませんが被害をうけた場所を作業しました。被害がすこかつた地域から順に作業が進められるためか三週間ほどたつていますがその時の被害がそのまま残つていました。

一日目は、多少湿つていましたがほとんど乾いている土を時間が有る限り撤去しました。二日目は川にたまつた土砂を撤去しましたが川に浸かつた土に足を入れると簡単には抜けませんでした。足だけでもうごきにくいのに体全身にこれがおそつてくると考えるとゾツとしました。水を含んだ土は乾いた土より量がすくなくともとても重くとても重労働な作業となりました。

二日目には十二名一班のリーダーを勤めさせてもらいました。ほとんどが自分よりも年上でリーダーも経験されたことがある方が多かつたのですが、支えられながら少しだけリーダーとして勤めることができました。終始緊張していましたが、すべてが終わると、もつとああすればよかつ

たと思ったり緊張していたことがくやしい気持ちになり、次回もチャンスがあればリーダーをしたいとおもいました。

短い期間で二回も参加させていただいて状況の変化など色々なことを感じました。今回も作業活動場所がなくなるほど多くの方が参加しようと考えられているのを見てやっぱり日本はあたたかい場所だと思いました。中には五日連続参加されたい、自分にできることがあるかわからないうが参加を希望してこれられている方がいたり、さまざまな方が来られていてお話をすることができて自分自身のためになることが多くありました。是非次回も参加したいと思います。ありがとうございました。

★★大阪府 二十代 男子大学生★★

広島のボランティアに行かせて頂いているいろいろな経験をさせて頂きました。現地に足を運ばないとわからないことなどたくさんありました。現地に行くと車がドロドロになっていてとても驚きました。車がドロドロになっていることは車の上まで泥が来ていたということです。あと家の壁が割れていたり想像もつかないようなことがたくさんありました。ボランティアにはたくさんの方が来ていろいろな話も聞かせていた

だきとても勉強になりました。現地でも水やアクエリアスお茶などいろいろ出してくださいだきとても感謝しています。そういう人たちがいるから僕たちはしつかり作業もできました。改めて感謝の気持ちを実感する事が出来ました。送り向かいをしてくれるバスの運転手さんなどにもとても感謝しています。ボランティアにも参加出来ない人もいます。そういう人たちの分も僕たちのできることをしつかりやれたのは良かったと思います。

このボランティア活動でもう一度自分がどれだけ不自由なく生活ができていくかということを実感しました。今自分のできることを精一杯やりいろいろな人たちに恩返しができるかと思っております。ボランティア活動は自分にとってもとても大きな経験になり自分を見つめなおすことができました。こういうことを生かしてこれからも周りの人やいろんな人の助けになればと思います。自分にとってこういう経験ができたということとは人生にとってプラスになりました。本当にありがとうございました。

★★大阪府 十代 男子大学生★★

今回、広島市安佐南区におけるボランティア活動に参加でき学ぶことも多くありましたが、衝撃を受けることがとても多く感じました。何より一

番に衝撃を受けたのは、ボランティアしたくてもできない人が現実いるということ。今回の被害で多くの方が被災地へ駆けつけ、ボランティア活動の本部も必死に振り分けや役割分担などの作業を行っていた。しかし、受付や登録などがされていないボランティア希望の人は安易に受け入れることができない現状にあり、自分もたまたまその参加できない人に遭遇し、とても複雑な気持ちになった。被災地のために何かをしたいという素晴らしい気持ちがあるのに、その気持ちが届かないという残念な状況だ。自分の立場としてはただ参加してもらっている立場なので、偉そうなことは言えないが、何か良い策はないのか考えなければならぬと思った。難しいことではあるが、多くの何か手伝いたいという気持ちで被災地に届くような形になればと強く感じました。

二日間のボランティアを終えてから、テレビのニュースなどで現地の報道を目にして、改めて被害の大きさを身にしみて感じます。もし自分のふるさとが同じ被害を受けたらと考えると、現地を生で感じたこともあり、とてもではありませんが、立ち直ることはできないと思います。しかし苦しみなながらもこの災害と戦っている方たちの姿を見て、もつと今の自分の人生を全力で生きなければいけないと感じました。それに、ボランティアといえど、見知らぬ他人が集っているのにも関わ

らず、あの計り知れない団結が生まれたことも自分の記憶にも深く残ると思います。もしまた場所は違ってもなにか、誰かの力になれるときがあればこの経験を必ず活かして少しでも力になれるように行動していきたいと強く感じました。

★★大阪府 二十代 男子大学生★★

今回、はじめてボランティア活動に行かしてもらって、今までそういうのをテレビでしか見たことなかったんですけど、実際に現地に行ってみると、今までテレビで見えていたのとは、全然違って、自分らが行った時は土砂災害があつてからだいぶ片付いていたと思いますが、まだまだ土砂が残っていたり、公園がぐちゃぐちゃになっていたり、言葉が出ない状況でした。でも、ボランティア活動の人達がびっくりするぐらい大勢いて、自分らが担当してもらった場所もなんとか一日で土砂がなくなつて、よかつたと思ひました。自分は、二日間しかボランティアをできなかったんですけど、少しでも役に立ってる事ができたらいいなと思ひ、行かしていただきました。小学校には、被災された方がまだ体育館で生活してたりしてたので、一日も早く土砂が片付いて元の生活に戻れるようになって欲しいと思ひます。このような経験ができてよかつたです。改めて、人々の協力す

ることや助け合いの大切さに気づかされました。この経験を生かして、今自分らが満足に生活ができていることが当たり前じゃないということをして肝に命じてやって行きたいと思ひます。またこのような機会があれば参加して、ちよつとでもお手伝いをさせていただければいいなとおもひます。ありがとうございます。

★★大阪府 十代 男子大学生★★

今回僕は三日間かけて広島のがれき撤去のボランティアに行かせてもらひました。実際にボランティアとして活動したのは二日間だけだったので僕はこの二日間の中でもすごくたくさんのお事を感ひしたり、学んだり、経験することができました。

広島は土砂崩れはニュースでしか見てなかつたけど実際にその現場に行ってみると僕らが想像してた以上のものがありました。山は地すべりしてて家は崩壊してて言葉が出ませんでした。僕らボランティアはその現場から少し離れたところまで活動してました。作業をしていると近所の方から差し入れをたくさんいただいたりしました。他にも地域の方たちが僕らが作業しやすいように指示をだしてくださつたりと広島は被災地のためにボランティアとして行かせてもらつ

ているのに逆に地域の方たちにお世話をしてもらつてました。でも地域の方たちのおかげで作業がやりやすく効率よくできたと思ひました。ついでこの前行方不明になっていた最後の一人の方が見つかつたと聞きました。最後の最後まで諦めずに沢山の人が捜索してました。これは本当に素晴らしいことだと思ひました。この震災でたくさんの方が命をなくしてしまつたからこのようになつてないと思ひました。まだ全然がれきは綺麗になつてないしこれからが大変だと思ひながらもまたこのようなボランティアとして行ける機会があれば行こうと思ひました。

★★大阪府 十代 男子大学生★★

十二日から十五日まで広島の方へボランティア活動に行かせてもらひました。広島について思ったことはほんとに災害があつたのかと思ひくらしい普通の街だと思ひました。しかし少し山の方に行くに連れて山が崩れていたりしたのを見てはじめてすごいことになつてくるのだなと感じました。今回が初めてのボランティア活動の参加で感ひしたことは自然の力の怖ろしさを感じました。それと同時に一人ひとりの力は微量でもみ



んなで力を合わすことにより自然にも負けない  
すごい力を発揮出来る人間の団結力の凄さも感  
じる事が出来ました。また作業はともしんど  
かったが被災された方からのありがとうという  
言葉や、現地の方や現地にボランティアに来てい  
る方々から自分たちも疲れてしんどいのにもか  
かわらず先にあがらせてもらう自分たちに笑顔  
でお疲れ様などの声掛けをもらい二日目も作  
業を途中でやめることもなく最後までやりきる  
ことが出来ました。

自分は改めて言葉の力のすごさも感じました。  
自分は将来このように人の心を動かせる人間に  
なりたいたいと思いました。これは監督さんがおつし  
やっていた現地に行かないとわからないことが  
あるという事の一つではないかなと思いました。  
今回一緒に行かして頂いた団体の方々には以前に  
もボランティア活動に行っていると聞き、以前の  
体験談を聞いたりしたが、その中でもみんなが揃  
っておつしやっていたのがボランティア活動に  
一回目の参加は勇気がいるが二回目、三回目は自  
然に行動が出来るとおつしやっていました。それ  
がとても心に残り、改めて思うと、以前に募集が  
あった福知山のボランティア活動に参加すれば  
よかったなと思いました。

また学校の先生の人が多く、大人の会話の仕方  
などの大人の対応の仕方なども学ぶことが出来

ました。こうやって大人の人たちと一緒に過ごす  
といかに自分たちがまだ子どもなんだなと感じ  
ました。二日間で出来たことは復興に向けてほん  
の少しの事かもしれませんが、ほんの少しでも力  
になれてよかったです。二日間作業をして得るもの  
はたくさんありました。この得たものをこれから  
の生活に活かせたらいいなと思います。また今回  
得ることができたものはまだほんの一部だと思  
います。なので、また機会があれば参加し、いろ  
いろな事を勉強したいと思います。ありがとうご  
ざいました。

★★大阪府 十代 男子大学生★★

今回私は初めてボランティア活動に参加させ  
てもらいました。行きのバスの中で参加者の皆さ  
んの話がありました。皆さんいろいろな気持ちを持  
っておられて、いろいろ考えておられてとても  
大学生の私には勉強になりました。大人なら当た  
り前って言われるかもしれませんが、大学生と言  
う中途半端な年齢の私にはとても新鮮でした。ま  
た自分のおもっていることや考えていることを  
多くの人の前で話すことができることもすごい  
と思いました。私はなかなか恥ずかしさがあり人  
前ではあまり自分のおもっていることや考えが  
話せません。しかし参加者の皆さんは堂々と話し

ておられました。このことは自分がこれから生き  
ていく中でとても大切なことだと思えます。これ  
から皆さんのように大勢の前でも自分のおもっ  
ていることや考えが話せるように頑張っていき  
たいと思いました。

今回の活動の一日目は土砂が流された畑に行  
きました。現場に着いたら地主がすでに作業を始  
められていて、ボランティアの人を見ると深々と  
お辞儀をされました。五秒間くらいお辞儀をされ  
ていました。まだ現地にいっただけで何にもして  
ないボランティアの人達にお辞儀をされていま  
した。地主さんにとってボランティアの人達がど  
れほどの助けになるか、そして地主の感謝の心が  
ものすごく伝わってきました。そして地主さんの  
ために頑張ろという雰囲気皆さんから出てい  
ました。やはり人間は頼られると嬉しいくおもい、  
よりやる気が出るのだとふと感じました。

二日目は溝に溜まつ土砂を取るという作業で  
した。この作業は特定の人のために作業しないと  
いうこと前日との大きな違いだと感じました。つ  
まり、感謝されることがあまり感じられない作業  
でした。しかし、考えかたを変えればみんなのた  
めになる作業でした。そしてボランティアは感謝  
されたいためするものではないということがす  
ごく実感できました。そしてこの二日間でボラン  
ティアセンターでボランティアをする人がいる

からこそ現場に来たボランティアの人がとてもスムーズに活動ができるのだと思いました。レールに乗るという意味が身で感じる事ができませんでした。またボランティア活動の問題も少し考えられました。ボランティアセンターにいったら自分がしたい、自分が得意な活動が出来ません。かといってボランティアセンターがなかったらある所に人が集中したりさずる問題があります。怪我等などしてもなかなかうまく対応が出来ません。いろいろ考えさせられました。

最後に今回のボランティア活動に参加させてもらってボランティア活動の考え方が一八〇度変わりました。こんな言い方をしたらいけません。がやってあげるといふ考えがありました。しかし今回参加させてもらって参加させてもらうという事を強く感じました。ボランティア活動に参加させてもらって、参加してだからこそわかったことだと思いました。

★★大阪府 十代 男子大学生★★

先日の広島土砂災害ボランティアについて：九月十三日からの三日間非常に素晴らしい体験、出会いをさせて頂きました。広島へ行くバスに乗り込む前に手作りのおにぎりの差し入れや監督からのパンの差し入れなど温かい気持ちを頂き

ました。ありがとうございました。

まず感じた事は、現地の人の「ありがとうございます」「お願いします」の言葉に普段とは違う重みや気持ちを感じました。一日目は畑に堆積した土砂を土嚢につめ、運び出したり、土砂で埋まってしまった道の泥を撤去するというものでした。おじいちゃんが一人できりもりしている畑で、終わった後のおじいちゃんの深々とずつとお辞儀をされて目頭を熱くしている姿に、やってよかった、少しでも役にたてたのかな、これから少しでも前へ進んでいってほしいと思いました。

二日目は用水路に堆積した土砂を土嚢につめ、運ぶとゆう作業でした、近隣の方の話ではこの用水路はホタルを見ることができるようなきれいな用水路だったそうです。終わりは見えませんが、少しでもきれいにしたいと思いながら作って来るような用水路にしたいと思いつつ作業させて頂きました。かぎられた時間の中で最後残り五分とゆうところではこびきれていない土嚢がまだ残っていて、自分達の班みんなで運んでいると、隣のまった知らない方々がなにもいわずに手伝ってくださいました。すごくなにか温かいものを感じて、「一つになったように気がしました。日本を美しくする会の方々と仲良くなれて、一緒に作業できて自分がまた一つ成長して視点な

どが変わったなと思いました。最後になりましたが、このような機械を作って頂きました監督さん、日本を美しくする会の方々、廣嶋のボランティアセンターの方々、旅館魚光の方々、バスの運転手の方々、ありがとうございました。

★★大阪府 十代 男子大学生★★

三日間広島に始めてボランティアにいかして頂きました。尼崎からバスで深夜に移動で朝に着くバスの中でボランティア団体の方と一緒に乗ってまず一人ずつ自己紹介がありました。すごくボランティア活動に感心があり強い意志をもった人ばかりで話している間に二時間ぐらいは経っていました。着いたその朝から活動があり、畑や道に詰まった土をとって運ぶ作業をしました。すごくハードでしたが、やり終わった後はすごく嬉しい気持ちになりました。始まる前も終わった後も町のおじさんから挨拶があり、何度も頭を下げて感謝を述べられていて、帰る時には一人一人に深く頭を下げていただきました。その姿を見るとすごく気持ちが伝わってきて、もつともつと力になりたいと思いました。

二日目は日曜日ということもあり、すごく人が多くて全員で川の中に入って中に詰まっている土を取る作業でした。取って行く中でもまた流れ

てきてくる土で減らないのが今の現地の状況で全部は終わらすことができなかったですが、皆さんと力を合わせてかなり減らせたのではないかと思います。途中も円陣を組んだりして、しんどい中でも声を掛け合って頑張れました。しんどい中でもみんなと声を掛け合って誰かの為に頑張る事は野球と一緒に事だなどやっていて感じました。

ボランテニア団体の方の中でも野球関係の方や学校の先生の方が多くて、話している中でも学ぶことがたくさんありました。行かないと分からないこともあるし、二日間だけでいいのかなと思う気持ちもありました。見ていて広島の方々の気持ちもすごく伝わってきましたし、作業終わるとありがたいことに、逆にこちらが様々なサービスをしていただき、改めてすごくありがたいことばかりだと感じました。この経験を家族やチームメイトに伝えて、もつと自分自身成長できるように、またこのような機会があれば参加して行きたいです。日本を美しくする会の皆様三日間ありがとうございました。

★★大阪府 十代 男子大学生★★

僕は広島にボランテニア活動を行ってる時に感じたのは参加者が三十歳を超えた人や女性の

方が多かったのが僕たちみたいな若い力が必要となり中心となって動かないといけないと思いました。またそれを産大野球部全員がそれを理解しており、積極的に力仕事に取り組み、黙々と一生懸命頑張っているように思いました。

僕はボランテニア活動経験者の人が言っていた言葉で印象に残ったことが二つあります。一つ目は、一回ボランテニア活動に参加した者は次回目、三回目と不思議と参加すると言言葉です。広島で二日間活動をして、みんなの前で産大野球部はよく動いてくれて助かると言ってください。とても嬉しかったのですが、個人的には振り返ればもつと頑張れると思いましたが、二日間もろのすごく短い時間だったのであまり現状が変わらなかったのでもまた行きたいと思えました。これがボランテニア活動経験者の人が言っていたことだと思ひ、貴重な体験をさしてもらいました。

二つ目は現地に足を運ぶだけでもボランテニアと言う言葉です。被災した現地ではまた被災する可能性があるのです、現地の人々は他府県に移動する人が多いので、僕たちが現地に行くことよつて人と人とのつながりを感じ勇気づけられるみたいです。ボランテニア活動をしている時お茶などの差し入れや、終わってからかき氷をもらい仕事をするサポートをしてもらい僕たちも人と人とのつながりを感じ、とても良い勉強をさして

もらいました。一人の力では今の広島を元の状態に戻すのは難しいですが、現地に足を運ぶだけでも喜んでいただけるのであれば少しは役に立てかなと思ひました。またこういう機会があれば是非参加させていたきたいです。

★★大阪府 十代 男子大学生★★

自分は三日間広島の方にボランテニアに行かせていただきました。自分は初めてでテレビなどでは被害などを見ていましたが実際に足を運んで見てみると映像とは全く違うものでした。ボランテニア活動を初める前に受付をして出発する前に係の人が手袋やマスクはありますかという呼びかけがとびかっていたりしていました。何から何まで準備して下さつて自分たちは敷かれています。ルールを元にボランテニア活動をしているんだなと感じました。

一日目は被害に遭つた家の掃除をしました。家に入ると床と壁が泥だらけでもう家じゃありませんでした。一七〇センチぐらいのガラス張りのベランダ扉があつて、扉越しを見てみると山から流れてきた足元から五〇センチの砂があつたり、電線などが埋まっています。他にも色々な光景を見て驚くことが多かったです。

二日目は溝に溜まっている泥をスコップです

くい土囊に入れてトラックに運ぶ作業でした。始める時はものすごい泥の量でした。でも約一〇〇人がかりで作業をしたので終わる頃にはもうほとんど泥はありませんでした。現地の方々が若い力が欲しいということが十分にわかりました。ボランティア活動を終えて、とても大変な作業でしたが、その分色々なことが感じ取れたことが非常に良かったと思いました。

★★京都府 二十代 男子大学院生★★

いつも東北の方へ行かせてもらっていました。が今回広島市安佐南区の土砂崩れの復旧支援に参加させていただきました。いつも一緒に石巻へ行かせてもらっていた方がある回のバスの中で、東北の地震の後にも大きな災害はきつとあるでしょうからそのときもこうして復興のために力を合わせることは大事になると思いますと話されていたのを思い出します。その当時はただ漠然と何十年か先の話だと思っていました。思ったより早くそのときがきたことに驚くとともに、バスを出す決断をしてくださった大谷先生や神姫バスの運転手さん、一緒に活動させてもらった方々に感謝したいと思います。

東北行きするときより少しゆっくりめに出発して朝七時頃にボランティアセンター前の公園に

到着しました。我々の団体の前にはまだ数人でしたが時間がたつにつれ少しずつ増えてきて、初日も二日目も公式の受付開始時間より前の八時頃には公園がほとんど埋まってきました。繰上げで受付へ向かうと大勢のスタッフの方がおはようございます、よろしくお願ひしますと通路の両側から声をかけていただきました。出発のとき、活動を終えて戻ってきたときも同様です。こうして声をかけてもらうだけで気持ちも否応なく高まり、活動を手伝ってもらえるような気さえしました。応援の力が持ちうる力にとっても驚きました。また班分けにしても、何百人も参加者がいたりまたま一瞬その場を離れている人もいたり大変な中みんな気持ちよく参加できるように配慮しておられていました。スタッフには地元の方も多いそうです。地元の災害ということできっと自分の手を動かして作業されたいという思いもあられると思います。それをこうして「輿を担ぐ人の草履を編む」ように後ろから支える役割を心こめてされておられるのがとてもありがたかったです。スタッフでなくても、行く先々ですれ違う近所の方や最後のお風呂に來られていた近所の方からもありがとうと声をかけていただいていた温かくなりました。

送り出された後バスで近くまで向かいそこからは歩いて現場まで行きました。山の様子を見る

と山のほとんどは普通の緑色をしていましたが一部土砂崩れで木がなくなっているところがありました。その山の一部分だけの土砂で初日の住宅地付近は公園の金網が潰れかけていたり庭などにも大量の土や石が入ってきていたりして自然災害の怖さを感じました。午前中は庭に溜まった土を土囊袋に詰めていきました。作業し始めたときは大量にあつたのも力を合わせると次第にスコップが本来の地面に到達し隠れていた脚立が現れどんどん進んでいきました。昼前からあるお宅のほうへお邪魔して入り込んだ土を水で洗い流したり壁についた土を拭いたりしていきました。せめて家の中の一箇所でも泥がなくなつて素足で歩けるような場所を作りたいという思いでした。数時間力を合わせて一階部分の土を外に出していきました。素足で歩けるまでにはできませんでした。途中でその家のお母さんが写真を見つけたと言つて見せに来てくださったときの笑顔、最後帰るときに一家揃つてありがとうと見送つてくださったことに心が温かくなつてその場を後にしました。

二日目には川の中に流れ込んできた土を土囊袋に入れて外に出す作業になりました。他の団体も含め災害後最大規模の作業になると聞き心も高まりました。行く途中各地で他の班にすれ違つたり既に作業している班がいたりして、一瞬すれ

違っただけの人どうしが復旧復興のためという同じ目的のために頑張っているという事実をお互いに言葉を交わさなくても知っているということがふと無性に嬉しく思えました。災害後間もなくの被災地に行ったのが今回初めてだったのもあり、他のグループの存在をここまで近くに感じられたことは新鮮でした。川の中で土をいったん何箇所かに集めてから土嚢に詰めることや土嚢を方向をそろえてきちんと積み重ねて上からの重みで水分を抜くことなど掃除の会ならではの工夫を教えてくださいました。産大野球部の方の存在はとても心強かったです。休憩中に他の班の作業の様子を見て他の班のやり方のいいところを学ぼうとされていた先生がおられたことを帰るときに知りました。それも土嚢袋固定用のバケツの使い方という、自分がもう少しうまくできないかと思いつながら作業していた内容でした。もったいないことをしていたと思います。休憩しながら少し体の向きを変えてみるだけでよかったです。土嚢がとてむたくさんできていきました。がまだ土を完全に取りきるころまではいきませんでした。土砂災害の前は蛍が飛ぶくらい綺麗な川だったのですがまだ茶色く濁っていて、まだここからだと思います。それでも他の班も含め多くの土嚢が運ばれていくのを見て、人が力を合わせることにすごさを感じました。

今回いろいろな場所で災害の大きさ怖ろしきを感じつつ、それでもたたくさんの人が力と思いをそろえることが持つ大きな力もまた同時に感じました。まだこれから復興に向けて大変なこともあると思いますが機会があれば参加させていたいただきたいと思っています。ありがとうございました。

★★大阪府 十代 男子高校生★★

僕が広島災害ボランティアに参加するのは今回が二度目でした。高校生の僕がこのような機会をいただけるのはとてもありがたい、普通ではできないことだと思っています。大阪から広島まで個人でボランティアへ行こうと思えばなかなか難しいと思います。僕なら間違いなく躊躇するでしょう。それを「日本を美しくする会」の協力のもと参加することができ、大きな一歩を踏み出すことができました。

「実際に行かなければわからない。」災害ボランティアに参加して初めてその言葉の意味がわかりました。被災地はどんなものかをテレビ、新聞等の報道により自分で勝手に分かっているかのごとく日々を過ごしていましたが、大きな間違いでした。被災地は私の頭の中の想像をはるかに超えるものでした。前回を含めて被災地・災害地と呼ばれる場所へ行くのは広島が初めてでし

た。そこで自然災害の猛威を初めて目にした私は「衝撃」の一言で息をのみました。山肌は崩れ落ち、大量の土砂や木々は家々を飲み込んでいました。そして、そこで暮らしていた沢山の人の生活をも飲み込んだ土石流は大きな爪痕を残していました。メディアが報道している内容なんてわずかなものだと思います。現場に行かなければ被災地の空気、雰囲気。被災者の表情なんかも分からなかったと思います。

今回ものすごく印象に残っていることがあります。それは、一日目に作業をさせていただいた畑の依頼主さんです。僕たちが作業しに来た時にとっても深いお礼を何度もしている光景でした。依頼主さんは、作業が始まると僕たちのことを何度も気にしてくれました。そして、最後には5秒は頭を下げているのではないかといった深い礼をしてくれました。被災した方の為と思つて作業していた僕がとても恐縮な気持ちになりました。

他に大きな発見がありました。それは数多くのボランティアを受け入れるためのボランティアがいることです。そして、ボランティアを受け入れる体制がすごかったことです。たたくさんのボランティアのためのボランティアの方たちは、僕たちに常に暖かく接してくれました。「熱中症に気をつけや。」と言って飴や沢山の水分をくれたり、ボランティア終了後にかき氷をくれたり、作業す

するための道具を貸し出してくれたり、長靴を洗ってくれたりしてくれました。言い方には語弊があるかもしれないですが、身体ひとつあればボランティアができるアトラクションみたいだと思います。しかし、それほどに現地には道具も揃ってれば受け入れる体制が素晴らしかったです。

今回のボランティアを通して僕は、日々の生活には当たり前なんかないのだと感じました。僕には被災された方の気持ちは分かりません。しかし、辛さは計り知れないと思います。日本は自然災害の多い国だと思えます。僕たちがいつ被災するのか、当たり前前に過ごしている明日の生活は約束されていないのではないかと思います。そう考えれば毎日の何気ないことだってとてもありがたしいことだと再認識しました。

被災地には同じ思いを持ったボランティアの人たちがたくさん集まってきました。実際に現地に行かなければそんな人たちが沢山いることも知りえなかったですし、とにかく行ってみることだと思えました。行けば分かる。もし今後、このような機会があれば積極的に参加しようと感じました。

★★兵庫県 四十代 男性★★

今回も日本を美しくする会のご支援を頂き、大

型バスをチャーターし広島へと向かうことができたこと、心より感謝申し上げます。参加募集のご案内をしてから一週間で四十名を超える方々から参加申し込みがありました。自分の都合を二の次にし、無理をしても参加された方も多かったと存じます。そのような方々と共に汗を流せたことが何よりも尊いことでした。ありがとうございます。

しかしながら、私たちが行ったことは微々たるもので、それをはるかに上回る支えを見えるところ、見えないところからして頂きました。

● 広島市の川合先生が、宿舎の手配をして下さいました。三連休で予約がいっぱいのところ、しかも四十名という団体です。川合先生のおかげで宿泊することができました。

● 西宮掃除に学ぶ会の北口さんと長谷川さんから、手作りおにぎりやデザート、お茶の差し入れを頂きました。

● 大産大野球部監督の宮崎先生からパンの差し入れを頂きました。

● 前石巻市立門脇小学校校長の鈴木洋子先生から金一封を頂戴しました。東日本大震災の被災地である石巻からのお心遣いに参加者一同感激致しました。最終日、作業終了後の銭湯代金に使わせて頂きました。

● 宿泊先の魚光旅館のおかみさんから金一封を頂戴しました。格安値段で宿泊させて頂いた上に、お心遣いも頂きました。最終日の銭湯代金に使わせて頂きました。

● ボランティアセンターの方々から準備から後片付け、作業中の水分補給まで至れり尽くせりの待遇を受けました。

● 二日目の作業終了後に公園で出会ったおばあさんからチョコレートの差し入れと労いのお言葉を頂きました。きっと公園でおしゃべりをしながら召し上がるうさぎお持ちが感動しました。

● 最終日の銭湯で地元の方々から、労いと感謝の言葉を身に余るほど頂きました。

● 浅野仁美さんが石巻で広島復旧活動への募金を集めて下さいました。その尊いご好意に感激しました。集まりましたものは広島市ボランティアセンターへ寄付して頂きました。

● このように様々な形で心温まるご好意を頂きました。お一人お一人のお気持ちを考えると涙が出てきます。見返りを求めず、助け合うことよってこのような幸福感を得られます。「まだまだ捨てたものではない」人としての誇りを感じました。ありがとうございます。

最後に【橋渡しという役割】というタイトルで今回の復旧活動の募集案内を致しました。宜しければご高覧下さい。

\*\*\*\*\*

自分に自信のない人、

人を信じられなくなっている人、

人との関わりが分からなくなっている人

日本に誇りを持ってない人、

もしも、そのような方が身近におられましたら、どうぞ橋渡しをしてあげてください。

九月五日金曜日の夜、二十三日に出発し自家用車で広島へと向かいました。土曜日の早朝七時に安佐南区災害ボランティアセンターに並びました。受け付け前の八時には集合場所の公園はいっぱいになりすでに五〇〇名くらいのボランティアであふれていました。おそらく一五〇〇人以上の方が参加されたのではないのでしょうか。

【復旧という同じ目的での団結力】

十二名でチームを作り、リーダーをさせて頂きました。ほとんど個人で参加された方々でした。見るからに現場のお仕事をされているであろうことが作業服と雰囲気で見分ける方がお二人参加されていましたので、とても頼もしく感じました。女性も三名おられました。活動場所は八木町三丁目。先週と同じお宅でした。数多くある現場の中で、まさか同じところで活動させて頂けると

は・・・。そのお宅は一人暮らしをされていた方が逃げ遅れて亡くなられたところでした。大きな石が混じった土砂をスコップで土嚢に詰め込み運んでいくという活動です。掘り起こしていくと洗濯機が出てきました。蓋が閉まっていたので、中に入っている洗濯物はあの日のままの状態でした。また、食器棚も同じようにあの日のままの状態でした。また、皆さんと相談して二〇分に一回休憩をとることにしました。休憩を重ねる度に参加者の皆さん同士も打ち解け、気がつけば暗黙の役割分担が出来上がっていました。経験のある方は難しい場所を担当し、力持ちの方は大きな重い石から先に運ばれていました。女性の方もドロドロになり、大粒の汗を流しながら頑張っておられました。

見返りを求めずに、純粋に困っている人の役に立とうと集まってこられた方々は本来人間の持つている良い面が全面的に出ているように思います。また、その中にいますと自分自身も良い人になったように思えてきます。

【支えられていることに感動】

お昼休みには作業者向けに炊き出しを行っているとのこと。そこに行くように指示があり、十二名でぞろぞろ移動しました。到着すると、めい

いた。一瞬何のことか理解できませんでした。「お帰りなさい」「お疲れ様」「ご苦労様」「ありがとう」本気の声でシャワーのように浴びせられました。自然と涙があふれてきました。同じ色のTシャツを着た炊き出しボランティアの方々が花道を作り「手を洗ってください」「冷たいおしぼりをどうぞ」「新しいタオルをどうぞ」「冷たい飲み物はこちらです」と誘導して下さいました。その度ごとに「お疲れ様」「ありがとう」のシャワーを浴びました。そして大きな声で「カレー食べ放題です」「トン汁も食べ放題です」「甘いお菓子はどうぞですか」と勧めてくださいます。堪えても堪えても涙が湧いてきます。サングラスをして泣きながらカレーライスを食べました。

人間てすごいです。

見返りを求めず助け合うと、このような幸福感を得られるのかも知れません。「まだまだ捨てたものではない」人としての誇りを感じました。

気がつけばみんな笑顔で語り合っていました。とりあえず来てみよう、来たら何かできることがあると思つて・・・。会社で声をかけてきても人が集まらず、でも一人でも来ようと思つて来た・・・。こんなに勇気をもらつて人つていいな・・・。そう口々に話していました。

作業をされている人たちはさらに心が一つになり、「日本に生まれてよかつた」心底そんな風

に思えた瞬間でした。しかしながら、この感覚はいくら頭で考えても感じることは出来ません。現地に行つて、身体を動かし、汗を流して、心で感じるものです。

食べ終わった頃にはお皿を片づけに来て下さり、「ジュースはどうですか。午後からのために冷たいお茶を持っていてください」と声をかけながら回っておられます。

ふつと横をみると、場所の隅に移動車店舗の「すなば珈琲」が鳥取砂丘から来られ、豆から引いた本格アイスコーヒーを飲んでもらいたいと皆さんへ振舞われていました。

後で聞いて知ったのですが、この炊き出しボランティアは有志のグループが現地で汗を流しているボランティアを元氣付け、頑張ってもらおうと自分たちでお金を出し合つて行っているそうです。そして、「お金が続く限りやる」と言われているそうです。その心意気に感動しました。

【役割を通してどの様に生きるか、その生き方に立派さがある。】

活動が終わり、ボランティアセンターに戻ると「長ぐつを洗う」「長ぐつを消毒する」「手を洗い消毒する」「うがいをする」など一連の流れが作られています。五個のパイプ椅子が用意され、そこに座ると、長ぐつを洗ってくれるボランティアおられました。その頃には結構な雨が降り

出していて、椅子に座る人は雨には濡れず、長ぐつを洗っている人は雨合羽を着て濡れながら洗っておられました。

「役割自体に立派さがあるのではなく、

役割を通してどの様に生きるか、

その生き方に立派さがある。」

中山靖雄先生のお言葉を思い出しました。

【存在自体を認められている】

振り返ってみると、私自身大したことは何一つできていません。しかしながら、私たちボランティアを受け入れている側の方々、炊き出しをして下さった方々は、皆さん声が大きく、笑顔で語りかけていました。本気の態度から、支えられているという愛を感じました。

仕事の結果、成果ではなく、

「この場においてくれるだけありがとう」

存在自体を認められているように感じます。

自分に自信のない人、

人を信じられなくなっている人、

人との関わりが分からなくなっている人

日本に誇りを持ってない人、

そんな人にこそ参加して欲しいと思いました。

ある意味において、社会ではしがらみや複雑な人間関係で嫌な面ばかりが表に見えているかも知れませんが、本当は「まだまだ捨てたものではない」のです。もしも迷われておられましたら、

勇気を出して参加してみてください。

心優しい人たちと本当の助け合いの精神に触

れ合った時

自分の悩みつつっぽけだな・・・

そう思えるかもしれません。

また、

「一人の百歩より、百人の一步」

自分だけが深めていくよりも、そのような方々の橋渡し役になって頂くことも大切なことだと存じます。どうぞ背中を押してあげてください。昨日送信されました鍵山相談役の一日一語が絶妙のタイミングでした。

ご紹介いたします。

←

『動中の工夫』

論理的に理解し、十分納得してからでなければ行動に移せない人は、一生かかって何もできません。また、行動する前から「わかった、わかった」という人の理解も非常に浅いものです。行動しながら考えるからこそ活きた知恵も湧いてきます。

白隠（はくいん）禅師の次の言葉が、そのこと

をよく言い表しています。

「動中の工夫は静中の工夫に勝ること幾千億倍」

\*\*\*\*\*